

# 『高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査』結果の概要

## ◎調査の目的

高齢者のライフスタイルや人間関係についての希望は多様であり、地域社会や近隣との関わり方への希望も個人によって差異があるものと考えられ、高齢者を対象とした施策の企画・実施に当たっては、個人のニーズの違いを考慮する必要がある。

本調査は、高齢者と地域社会・近隣との「つながり」（日常の付き合い、行事参加、緊急時の対応、生活支援など）の現状とニーズについて調査することにより、現在の地域における高齢者の実態と意識を把握し、今後の高齢社会対策の施策の推進に資することを目的としている。

## ◎調査項目

1. 健康状態・日常生活に関する基本事項
2. 近所づきあいや地域のつながりに関する事項
3. 日常生活に困った時・災害時等の対応に関する事項
4. 手助けや福祉サービス等の必要性に関する事項
5. 地域福祉活動等への取組に関する事項

## ◎調査対象

- (1) 母集団  
全国の60歳以上の男女
- (2) 標本数  
5,000人
- (3) 抽出方法  
住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

## ◎調査時期

平成21年10月29日～11月8日

## ◎調査方法

調査員による個別面接聴取法

## ◎調査実施期間

社団法人 新情報センター

## ◎回収結果

(1) 有効回収数 (率)

3,484 人 (69.7%)

(2) 調査不能数 (率), 不能内訳

1,516 人 (30.3%)

— 不能内訳 —

転居	53 人	長期不在	168 人
一時不在	424 人	住所不明	34 人
拒否	656 人	その他	181 人

## ◎調査対象者の基本属性 (性別・年齢別構成)

	性別			年齢別					
	総数	男性	女性	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	(うち85歳以上)
総数 (人)	3,484	1,620	1,864	926	888	751	552	367	104
構成比 (%)	100.0	46.5	53.5	26.6	25.5	21.6	15.8	10.5	3.0

## ◎過去の調査について

本報告書で結果を引用した過去の調査は次のとおりである。

(調査名)	(母集団)	(標本数)	(有効回収数)
平成 20 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	5,000	3,293
平成 15 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	4,000	2,860
平成 10 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	3,000	2,303
平成 19 年度調査 高齢者の健康に関する意識調査	55 歳以上の男女	5,000	3,157

※内閣府が実施した平成 6 年度以降の高齢社会対策に関する調査は、すべて内閣府 H P (<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu1.htm>) に掲載している。

## ◎ 調査結果の概要《主なポイント》

### 1. 健康状態・日常生活に関する基本事項

- 健康状態が良い（良い、まあ良い）人が 53.3%、良くない（良くない、あまり良くない）人が 18.8%であった。性年齢別でみると、どの年代も男性のほうが「良い」と回答する人が多く、70代前半までは半数以上が「良い」と回答している。
- 日常生活に満足（満足している、まあ満足しているの合計）と回答した人は 85.1%。性年齢別でみると、80歳以上を除く各年齢層で女性のほうが男性よりも満足度が高い。また、男性は60代前半が一番満足度が低く、女性は60代前半が一番満足度が高い。
- 将来の日常生活に不安を感じる（とても不安を感じる、多少不安を感じるの合計）人は 63.0%。都市規模別にみると、大都市では不安を感じると回答した人が多く、男女別では女性、世帯類型別では単身世帯において不安を感じる人が多い。
- 現在、生きがいを感じている（十分感じている、多少感じているの合計）人は 78.9%であった。男女別では女性のほうが男性よりも生きがいを感じている人がやや多く、女性の60代前半は特に生きがいを感じている人が多い。
- 「生きがいを感じる時」については「趣味やスポーツに熱中している時」が 44.3%で最も高く、「孫など家族との団らんの時」が 43.8%であった。

男女別でみると、男性は「仕事に打ち込んでいる時」「趣味やスポーツに熱中している時」「夫婦団らんの時」が高く、女性は「孫など家族との団らんの時」「友人や知人と食事、雑談している時」「おいしい物を食べている時」が高い。

都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「趣味やスポーツに熱中している時」が高く、町村では「孫など家族との団らんの時」が高い。

- 「現在の心配ごとや悩みごと」について、「自分の健康のこと」が 44.4%、「配偶者の健康のこと」が 26.3%であった。男女別でみると、男性では「配偶者に先立たれた後の生活のこと」が 15.6%、女性では「病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと」が 11.8%と高い。
- 外出の頻度について、「ほぼ毎日」が 61.9%と6割を超えた。「週1回未満（1ヵ月に1～3回以下、ほとんどしないの合計）は 5.7%であった。
- 都市規模別では、規模が大きくなるほど「ほぼ毎日」と回答する人が多く、男女別では女性よりも男性、年齢別では年齢が若いほど、「ほぼ毎日」と回答する人が多い。
- 生活に必要な外出（買い物・通院・郵便局など）の頻度について、「ほぼ毎日」が 30.0%であった。「週1回未満（1ヵ月に1～3回以下、ほとんどしないの合計）は 17.4%であった。

都市規模別では「小都市」や「町村」、住環境別では「田畑が多い農村地域」や「山間地域」で「週1～2回程度」と回答した人がもっと多く、3割を超える。

- 現在収入ある仕事をしている人における仕事のために必要な外出の頻度について、「ほぼ毎日」が57.2%と最も多かった。

年代別に見ると、60代前半では66.8%の人が「ほぼ毎日」外出しており、60代後半から70代後半においても「ほぼ毎日」外出している人は約半数となっている。

- 余暇などのための外出の頻度について、「ほとんどしない」が27.6%と最も高く、「1か月に1～3回」が26.0%、「週に1～2日程度」が22.6%であった。

男女別では男性のほうが外出頻度が高く、年齢別では、60代から70代にかけて「ほぼ毎日」と回答する人が増える一方、「ほとんどしない」人も増え、二極化していることがうかがえる。

収入別に見ると、収入が少ないほど、また健康状態が良くないほど、「ほとんどしない」が多くなり、健康が「良くない」を回答した人の74.6%が余暇などのための外出を「ほとんどしない」。

## 2. 近所づきあいや地域のつながりに関する事項

- 「ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしているか」について尋ねたところ、総数では「親しく付き合っている」が38.9%と最も高い。年齢別に見ると70代までは年齢が高くなるほど親しくなるが、80歳以上では「付き合いがほとんどない」が12.0%となる。

居住年数別にみると居住年数が長いほど、健康状態別では健康状態が良いほど付き合いが親しくなる。

子どもの有無別にみると、子どもがいない人では「親しく付き合っている」と回答した人は28.5%にとどまる。

- Q7で近所付き合いはほとんどないと答えた人にその理由を尋ねたところ、「普段付き合う機会がないから」が27.2%で最も高い。

男女別にみると、男性では「普段付き合う機会がないから」が31.1%と最も高かったのに対し、女性では「気の合う人が近くにいないから」が24.7%で最も高く、続いて「あまり関わりを持ちたくないから」が23.7%、「普段付き合う機会がないから」が22.6%であった。

- 「暮らしの中で地域のつながりは必要だと思うか」について、「必要だと思う」人（とても必要だと思う、どちらかと言えば必要だと思うの計）は93.6%であった。都市規模別に見ると、規模が小さいほど「とても必要だと思う」人が多く、町村では65.0%、大都市では52.9%と大きな差がある。

配偶者の有無別にみると、未婚者や離別者では「必要ないと思う」人が増え、未婚者では「必要だと思う」人は83.1%、離別者では88.2%にとどまる。

生きがいを感じている人ほど「必要だと思う」人が多く、「生きがいをあまり感じていない」人で「必要だと思う」人は89.9%、「まったく感じていない」人では76.7%にとどまる。

近所付き合いの程度別に見ると、付き合いが親密なほど「必要だと思う」人が多く、「親しく付き合っている」人の82.3%が「とても必要だと思う」と回答している。

- 「地域のつながり」について、「住んでいる地域には、地域のつながりはあると感じる（とても感じる、少し感じるの計）」人は77.0%であった。都市規模別にみると、規模が小さいほどつながりがあると感じる人が多く、町村では87.8%が「つながりがあると感じる」と回答している。

単身世帯や子どもがいない人では、「つながりがあると感じる」人が少なく、単身世帯では64.9%、子どもがいない人では64.1%にとどまる。

- 具体的な地域のつながりに関する「住んでいる地域で行われていること」について、「近隣同士でよく挨拶をしている」が75.7%、「回覧板・掲示板などが活用されている」が73.1%と高かった。

都市規模別にみると、大都市では各項目の回答比率が低く、小都市では高い。また、都市規模が小さいほど「困ったときに近隣同士で助けあう」との回答が多く、大都市が26.1%である一方、町村では45.1%であった。

- 「孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）」について、「身近な問題だと感じるか」について、「身近に感じる（非常に感じる、まあまあ感じるの計）」人は42.9%、「身近に感じない（あまり感じない、まったく感じないの計）」人は55.8%であった。

都市規模別にみると、規模が大きいほど「身近に感じる」人が多く、大都市では46.7%に達している。

世帯類型別にみると、一人暮らし世帯では「身近に感じる」人が64.7%と非常に多い。

男女別・年齢別でみると、男性より女性のほうが「身近に感じる」人が多く、男性では75歳以上、女性では80歳以上で「身近に感じない」人が多くなる。

健康状態別にみると、健康状態が良くない人ほど「身近に感じる」人が多く、「安否確認の声かけ」を受けている人や必要だけど受けていない人は「身近に感じる」人が多い。

近所付き合いの程度でみると、「親しく付き合っている」人は「身近に感じない」人が多い。

地域のつながりの必要性について、「必要ない」、「どちらかと言えば必要ない」と思う人は孤独死を「身近に感じる」人が少なく 27.1%。

地域のつながりの状況について、地域のつながりを感じない人ほど、孤独死を「身近に感じる」人が多く、地域のつながりを「感じない」人では 55.0%が孤独死を身近に感じている。の回答が多く、大都市が 26.1%である一方、町村では 45.1%であった。

- 孤独死を身近な問題と感じると答えた人に、その理由を尋ねたところ、「一人暮らしだから」が 30.1%、「ご近所との付き合いが少ないから」が 26.1%であった。

都市規模別にみると、大都市では「ご近所との付き合いが少ないから」との回答が多く 34.2%、町村では「一人暮らしだから」の回答が多く 34.2%であった。

### 3. 日常生活に困った時・災害時等の対応に関する事項

- 「災害時（台風や地震等）や火災などの緊急時に、一人で避難することができるか」について、「避難できる」が 91.1%であった。

年齢別にみると、80歳以上では「避難できる」が 71.4%と低くなっている。

健康状態別にみると、健康状態が「あまり良くない」人の 19.5%、「良くない」人の 38.9%が「避難できない（一人で判断できるが、避難はできない）、一人では判断できないし、避難もできない」の計）と回答している。

### 4. 手助けや福祉サービス等の必要性に関する事項

- 「現在、受けている手助けやサービス」について、何らかの手助けやサービスを受けている人は全体の 10.9%。「話し相手や相談相手」が最も多く 6.4%、「食事作りや掃除・洗濯の手伝い」が 5.6%であった。各サービスについて、「必要だが受けていない」と回答した人はそれぞれ 1%強であった。

Q1で健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した人が受けている手助けやサービスをみると、「通院や送迎や外出の手助け」が 17.7%、「話し相手や相談相手」が 14.6%、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」が 14.5%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が 14.0%であった。また、「必要だが受けていない」人は、「身体介護」で 7.2%、「通院や送迎や外出の手助け」で 5.0%であった。

年齢別に見ると、年齢が高くなるほど、手助けやサービスを受ける人が増え、80歳以上では「通院や送迎や外出の手助け」を受けている人は 21.5%であった。

### 5. 地域福祉活動等への取組に関する事項

- 現在の地域活動・ボランティア活動等への参加について、「現在、継続的に参加している」が 19.9%、「たまに、参加することがある」が 13.9%、「以前参加したことがある

が、現在はほとんど参加していない」が 14.8%であり、過去も含め参加したことがある人は合計で 48.5%であった。

年齢別にみると、60 代後半が「現在、継続的に参加している」人の割合が高く 24.1%、80 歳以上では「参加したことはない」人の割合が高く、63.5%であった。

都市規模別にみると、小都市が一番活動的であるのに対し、大都市では活動が低調であり、「参加したことはない」が 59.5%であった。

世帯類型別にみると、単身世帯では活動が低調であり、「参加したことはない」人が 66.8%であった。

- 「今後、地域活動・ボランティア活動等に参加したいと考えているか」について、「積極的に、参加したい」が 10.0%、「できるだけ、参加したい」が 18.9%、「機会があれば、参加してもよい」が 27.1%、「参加したいができない」が 11.3%で、参加意向がある人は合計で 67.2%となっている。

年齢別でみると、年齢が低いほど参加意向がある人は多く、60 代前半では 79.1%、60 代後半では 72.4%が「参加意向あり」と回答している。

都市規模別にみると、「積極的に、参加したい」と「できるだけ参加したい」の計は、都市規模が小さいほど高いが、「機会があれば、参加してもよい」は都市規模が大きくなるほど高くなる。

性別でみると「積極的に、参加したい」と「できるだけ、参加したい」の計は、女性より男性の方が 10 ポイント以上上回っている。

収入別にみると収入が高いほど参加意向がある人の割合が増える。

- Q15 で参加意向がある人に、「その中で最も参加したい活動」について尋ねたところ、「地域の環境を美化する活動」が 15.7%、「自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動」が 12.6%、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」が 12.1%であった。

都市規模別にみると、都市規模が小さくなるほど、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」や「地域の環境を美化する活動」に参加したい人が多い。

Q14SQ1 の「最も力を入れている（いた）活動」と比較すると、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」や「介護が必要な高齢者を支援する活動」については、「最も力を入れている（いた）活動」よりも「今後最も参加したい活動」と回答した人のほうが多い。

- 「地域の困っている高齢者の家庭に対して、何か手助けをしているか」について、「安否確認の声かけ」が 15.2%、「話し相手や相談相手」が 12.3%であり、何らかの手助けをしているとの回答は 29.0%であった。都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「特に手助けはしていない」が高い。

「地域の困っている高齢者の家庭があった場合、あなたはどのような手助けをしようと思うか」について、「安否確認の声かけ」が45.9%、「話し相手や相談相手」が35.6%で、何らかの手助けをしようと思うとの回答は80.3%を占めている。都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「しようと思う手助けがある（計）」が高くなっている。

「実施している手助け」と「実施したい手助け」を比較すると、いずれも「実施したい」と回答する高齢者が上回っている。



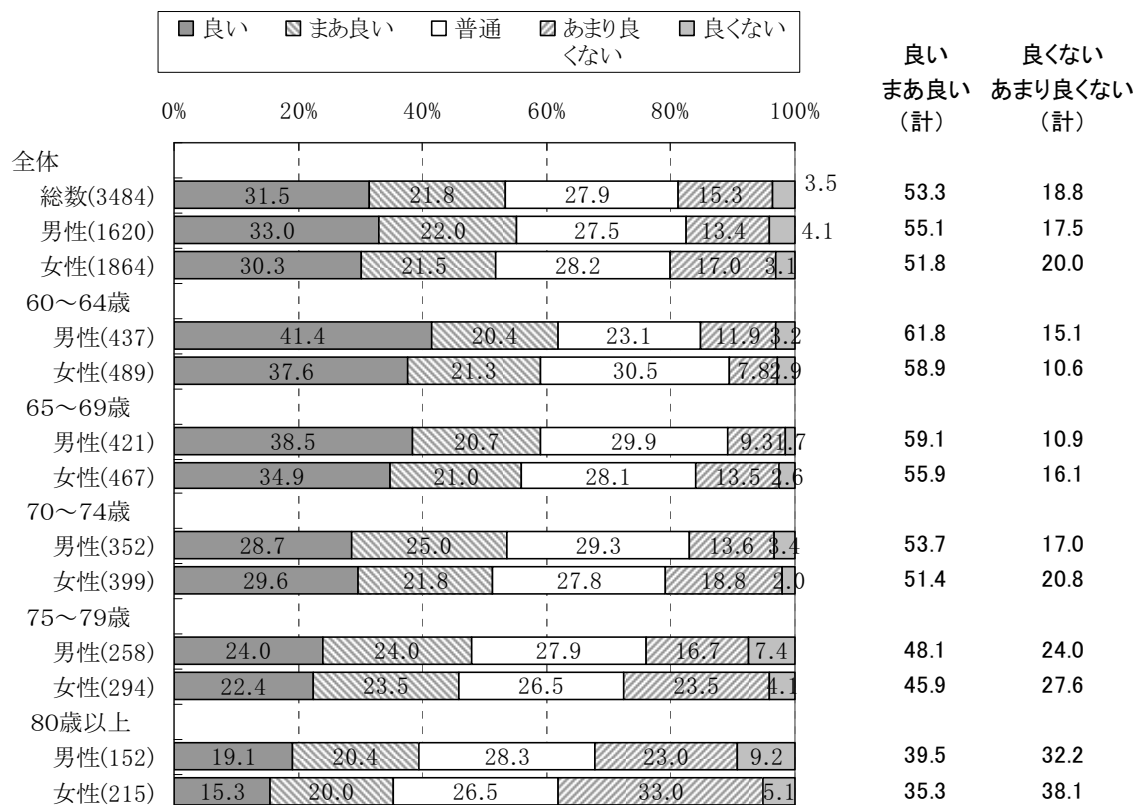
## ◎ 調査結果

### 1. 健康状態・日常生活に関する基本事項

- 健康状態が良い（良い、まあ良い）人が53.3%、良くない（良くない、あまり良くない）人が18.8%であった。性年齢別でみると、どの年代も男性のほうが「良い」と回答する人が多く、70代前半までは半数以上が「良い」と回答している。

Q1 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。

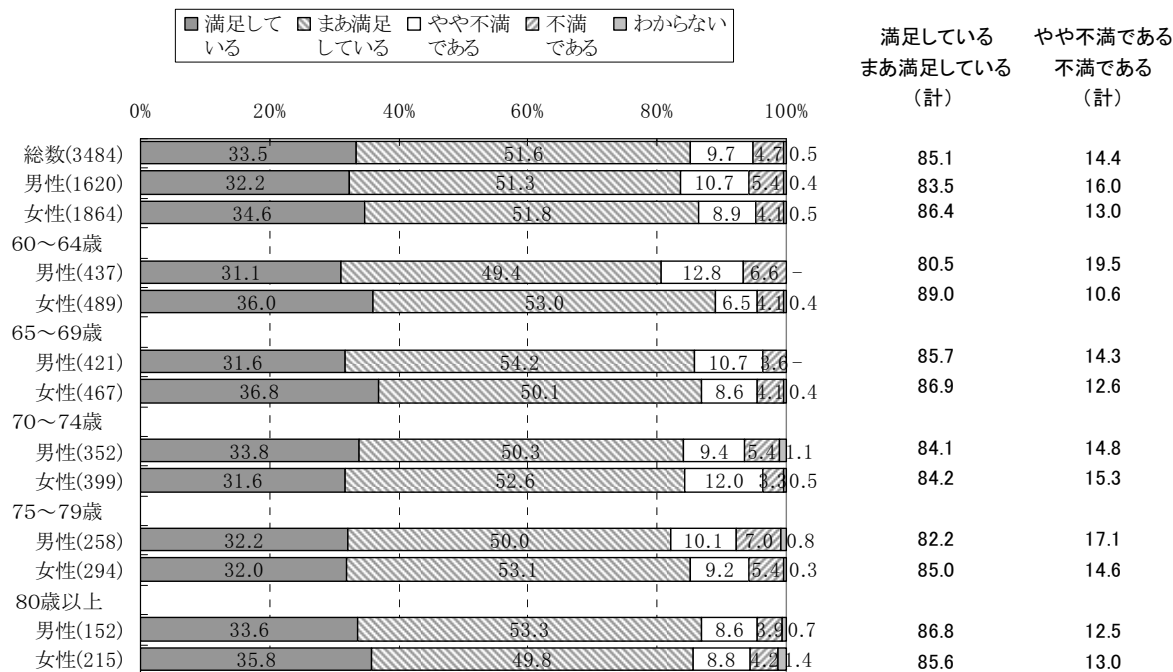
<性年齢別>



- ・ 日常生活に満足（満足している、まあ満足しているの合計）と回答した人は85.1%。性年齢別でみると、80歳以上を除く各年齢層で女性のほうが男性よりも満足度が高い。また、男性は60代前半が一番満足度が低く、女性は60代前半が一番満足度が高い。

Q2 あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。

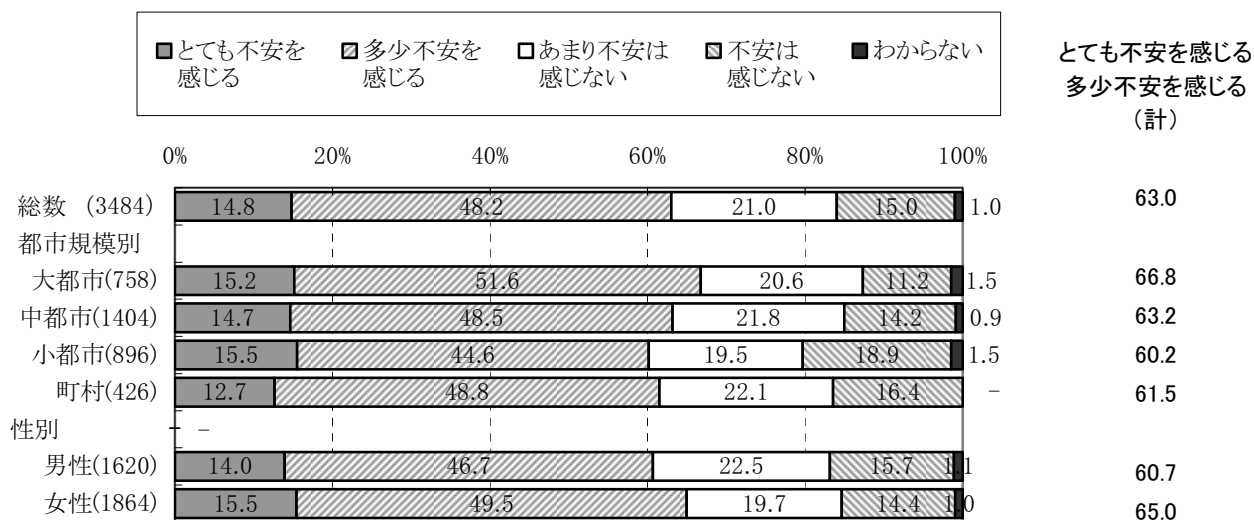
<性年齢別>



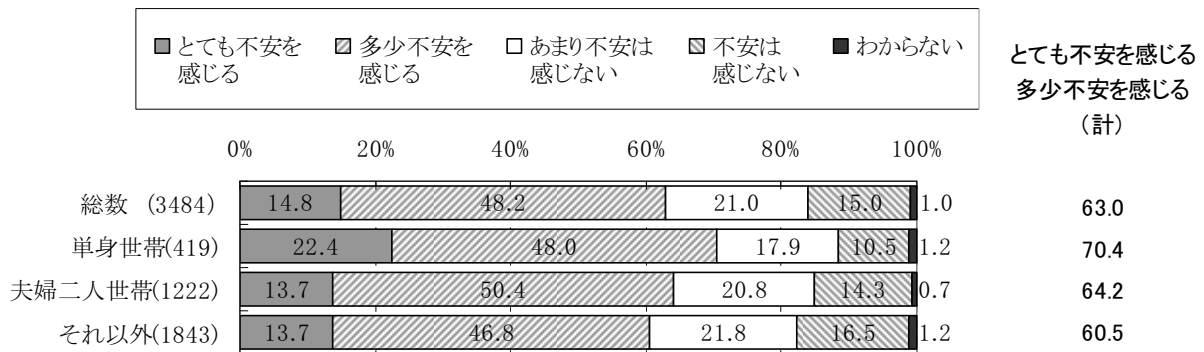
- ・ 将来の日常生活に不安を感じる（とても不安を感じる、多少不安を感じるの合計）人は63.0%。都市規模別にみると、大都市では不安を感じると回答した人が多く、男女別では女性、世帯類型別では単身世帯において不安を感じる人が多い。

Q3 あなたは、将来の自分の日常生活全般について不安を感じますか。

<都市規模別・男女別>



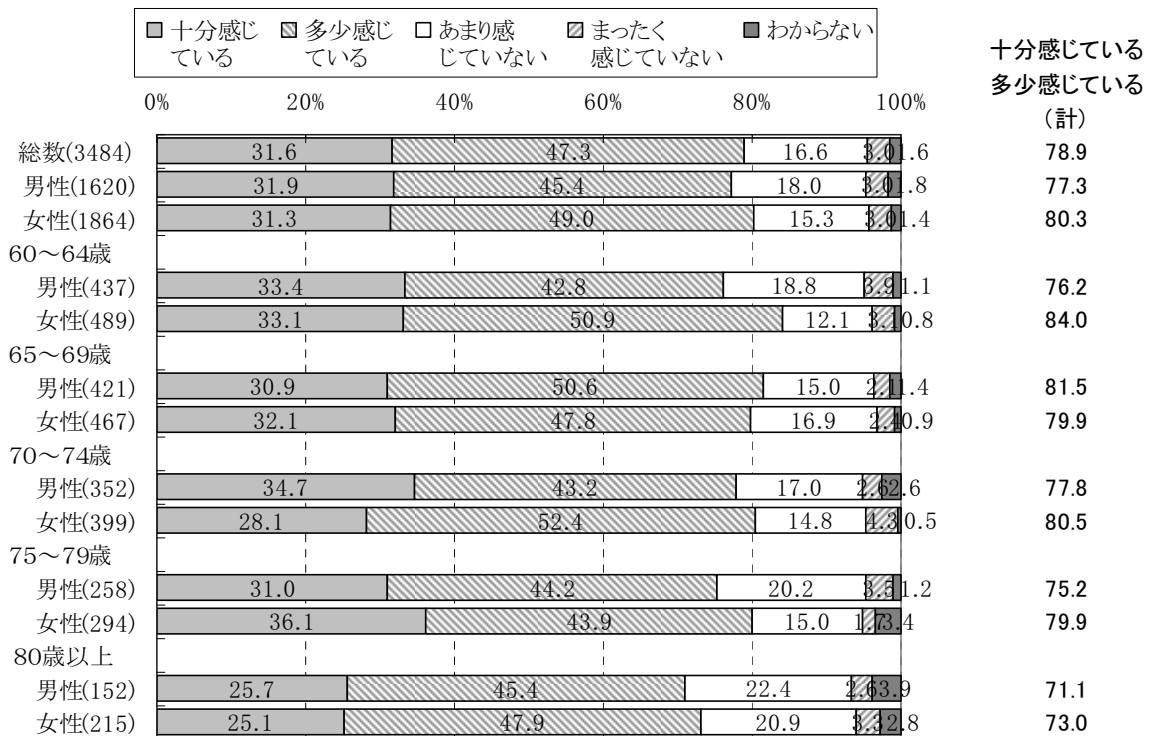
<世帯類型別>



- ・ 現在、生きがいを感じている（十分感じている、多少感じているの合計）人は 78.9% であった。男女別では女性のほうが男性よりも生きがいを感じている人がやや多く、女性の 60 代前半は特に生きがいを感じている人が多い。

Q 4 あなたは、現在、どの程度生きがいを感じていますか。

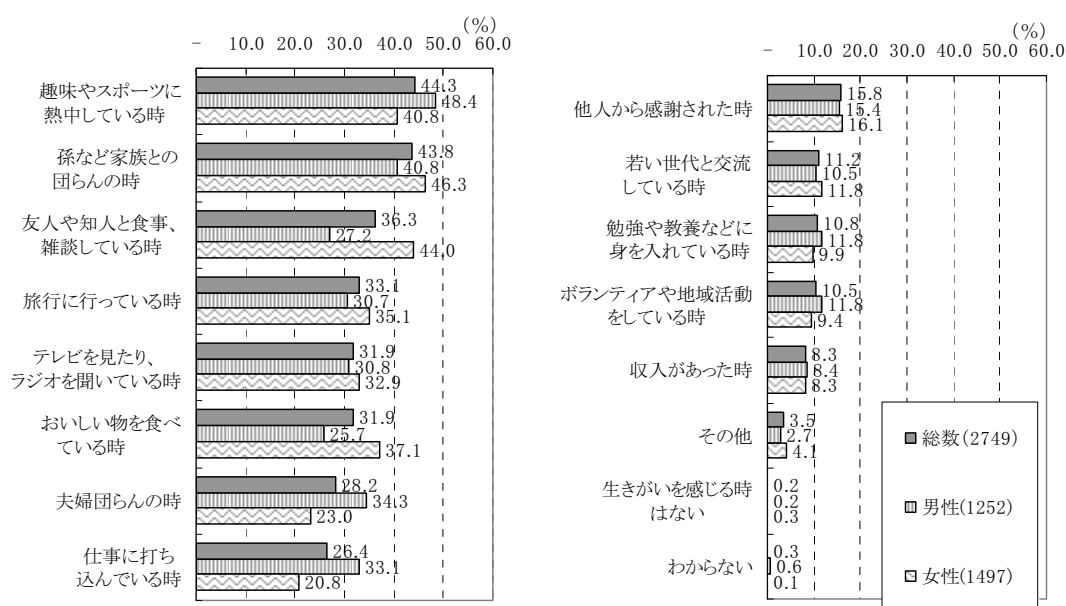
<性年齢別>



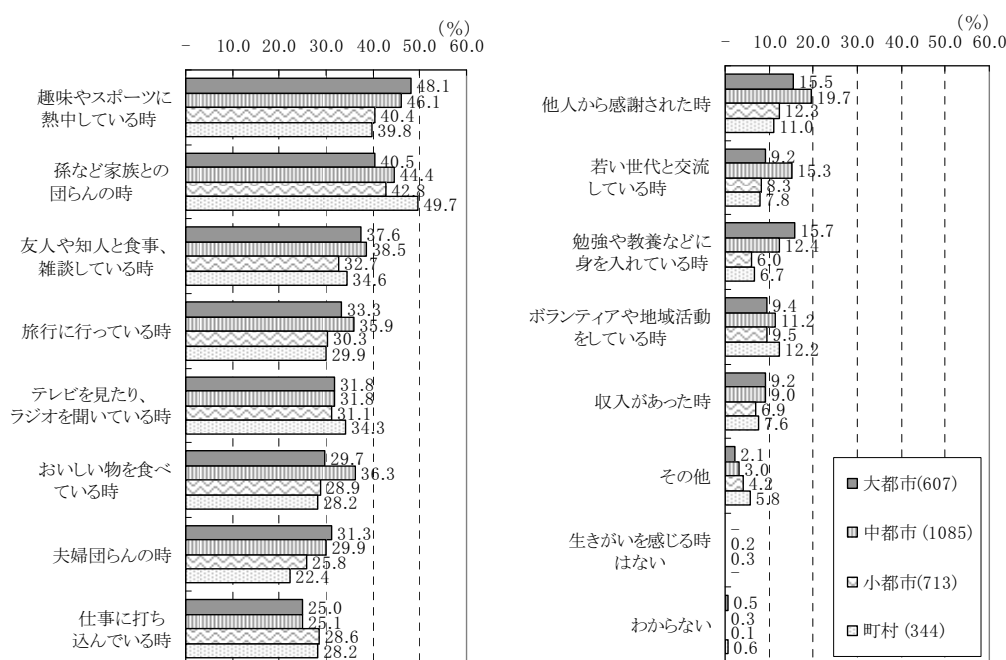
- ・ 「生きがいを感じる時」については「趣味やスポーツに熱中している時」が44.3%で最も高く、「孫など家族との団らんの時」が43.8%であった。
- ・ 男女別でみると、男性は「仕事に打ち込んでいる時」「趣味やスポーツに熱中している時」「夫婦団らんの時」が高く、女性は「孫など家族との団らんの時」「友人や知人と食事、雑談している時」「おいしい物を食べている時」が高い。
- ・ 都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「趣味やスポーツに熱中している時」が高く、町村では「孫など家族との団らんの時」が高い。

Q4SQ あなたが生きがいを感じるのはどのような時ですか。(M. A.)

<男女別>



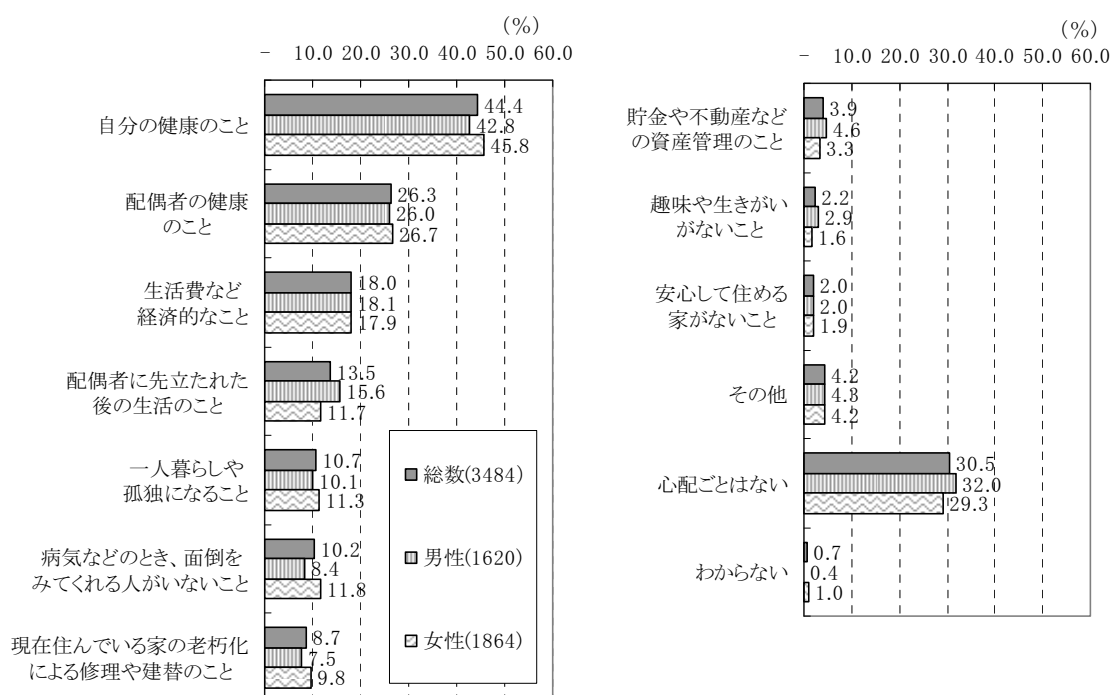
<都市規模別>



- ・ 「現在の心配ごとや悩みごと」について、「自分の健康のこと」が44.4%、「配偶者の健康のこと」が26.3%であった。男女別でみると、男性では「配偶者に先立たれた後の生活のこと」が15.6%、女性では「病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと」が11.8%と高い。

Q5 あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。(M. A.)

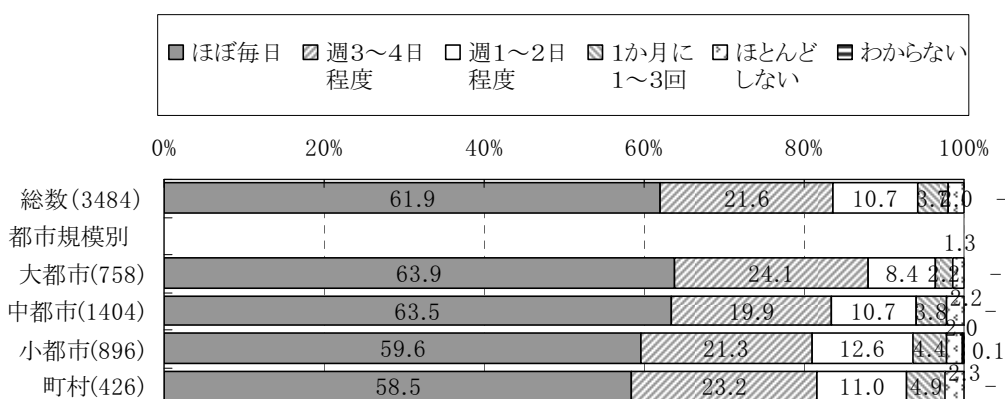
<男女別>



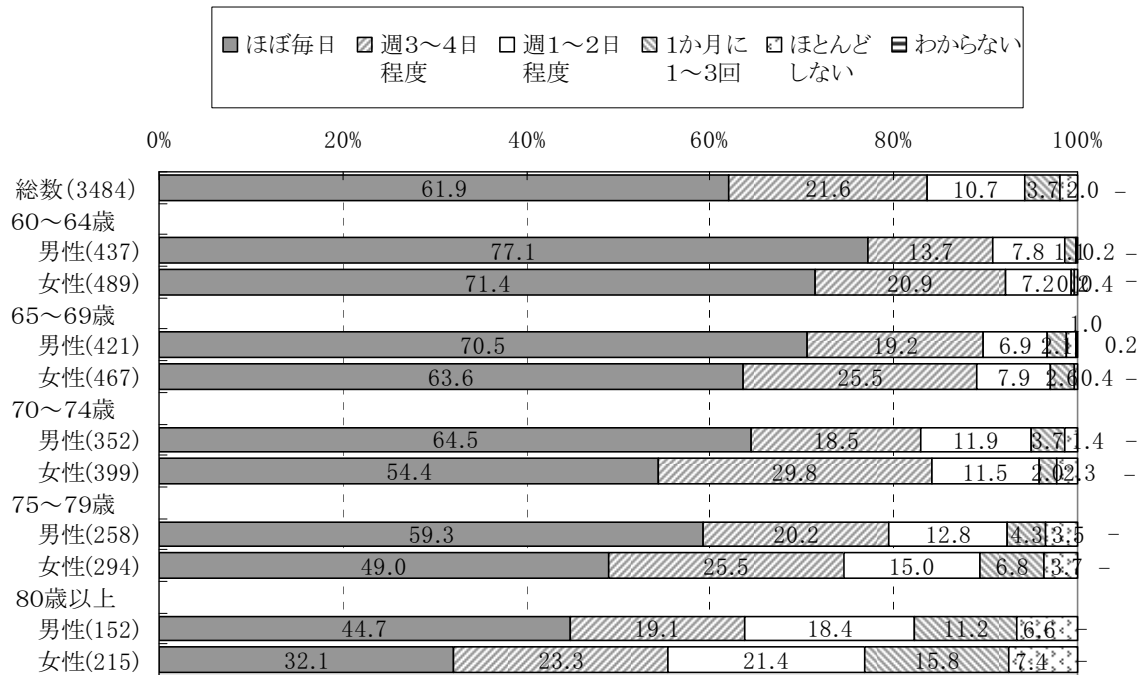
- ・ 外出の頻度について、「ほぼ毎日」が61.9%と6割を超えた。「週1回未満（1カ月に1～3回以下、ほとんどしないの合計）は5.7%であった。
- ・ 都市規模別では、規模が大きくなるほど「ほぼ毎日」と回答する人が多く、男女別では女性よりも男性、年齢別では年齢が若いほど、「ほぼ毎日」と回答する人が多い。

Q6 あなたは、どのぐらいの頻度で外出していますか。

<都市規模別>



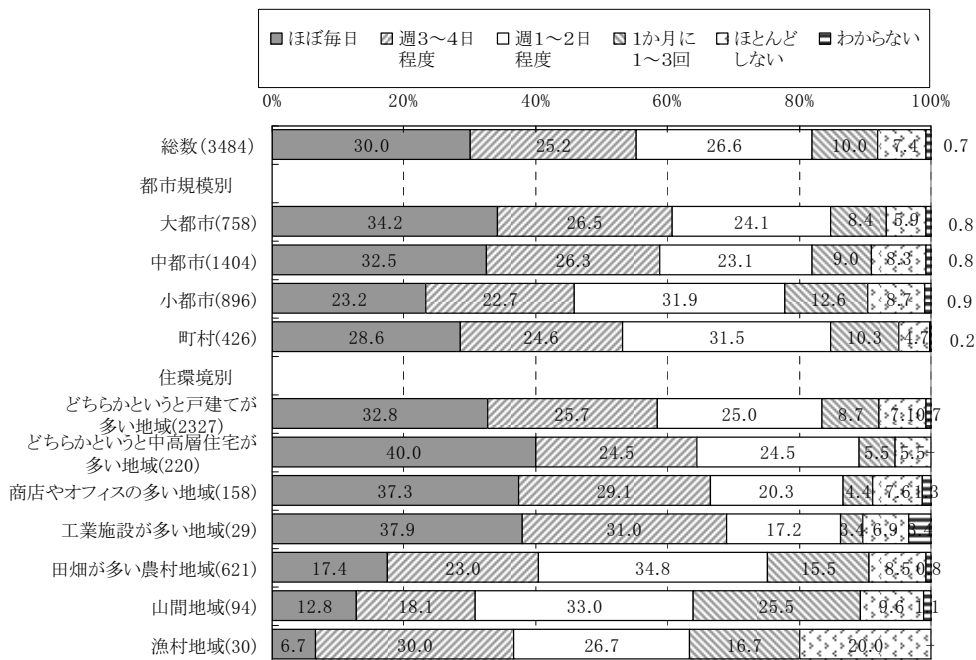
<性年齢別>



- ・ 生活に必要な外出（買い物・通院・郵便局など）の頻度について、「ほぼ毎日」が30.0%であった。「週1回未満（1カ月に1~3回以下、ほとんどしないの合計）は17.4%であった。
- ・ 都市規模別では「小都市」や「町村」、住環境別では「田畑が多い農村地域」や「山間地域」で「週1~2回程度」と回答した人がもっと多く、3割を超える。

Q6-(1) そのうち、生活に必要な外出（買い物・通院・郵便局など）の頻度はいかがですか。

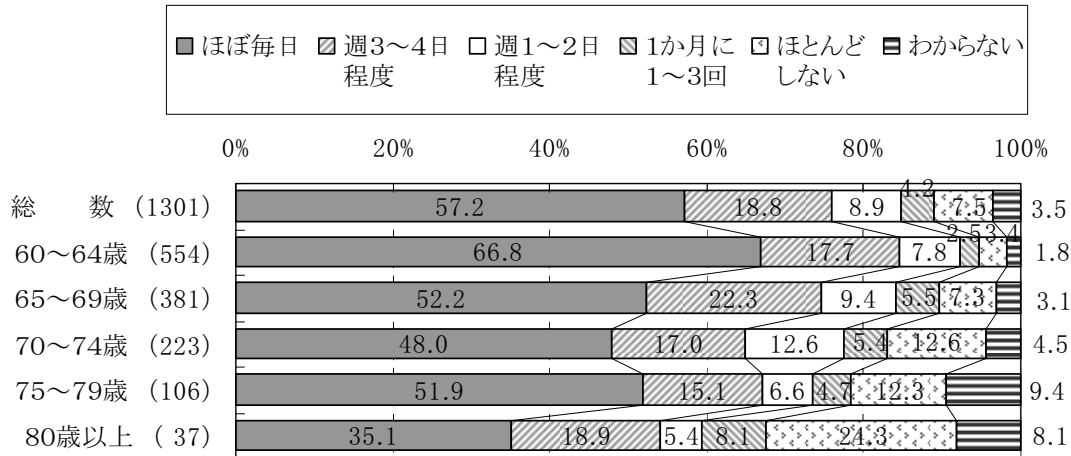
<都市規模別・住環境別>



- ・ 現在収入ある仕事をしている人における仕事のために必要な外出の頻度について、「ほぼ毎日」が57.2%と最も多かった。
- ・ 年代別に見ると、60代前半では66.8%の人が「ほぼ毎日」外出しており、60代後半から70代後半においても「ほぼ毎日」外出している人は約半数となっている。

Q6- (2) そのうち、仕事のために必要な外出はいかがですか。

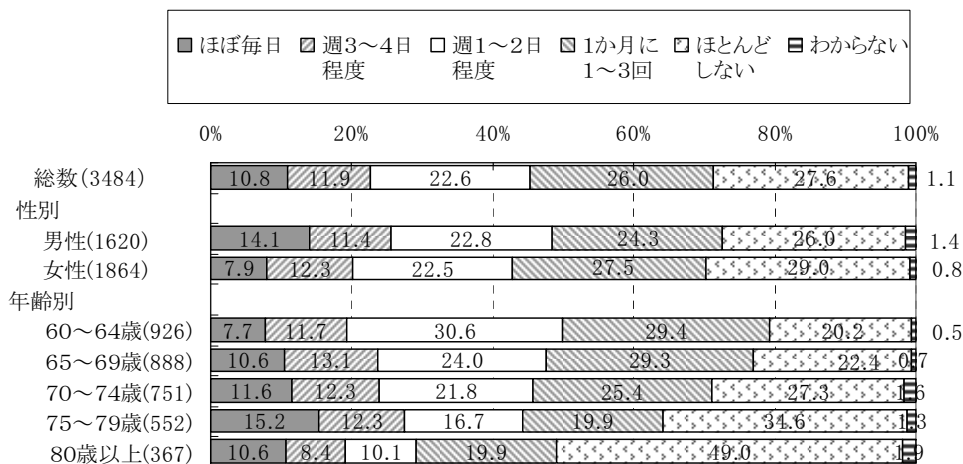
<年齢別>



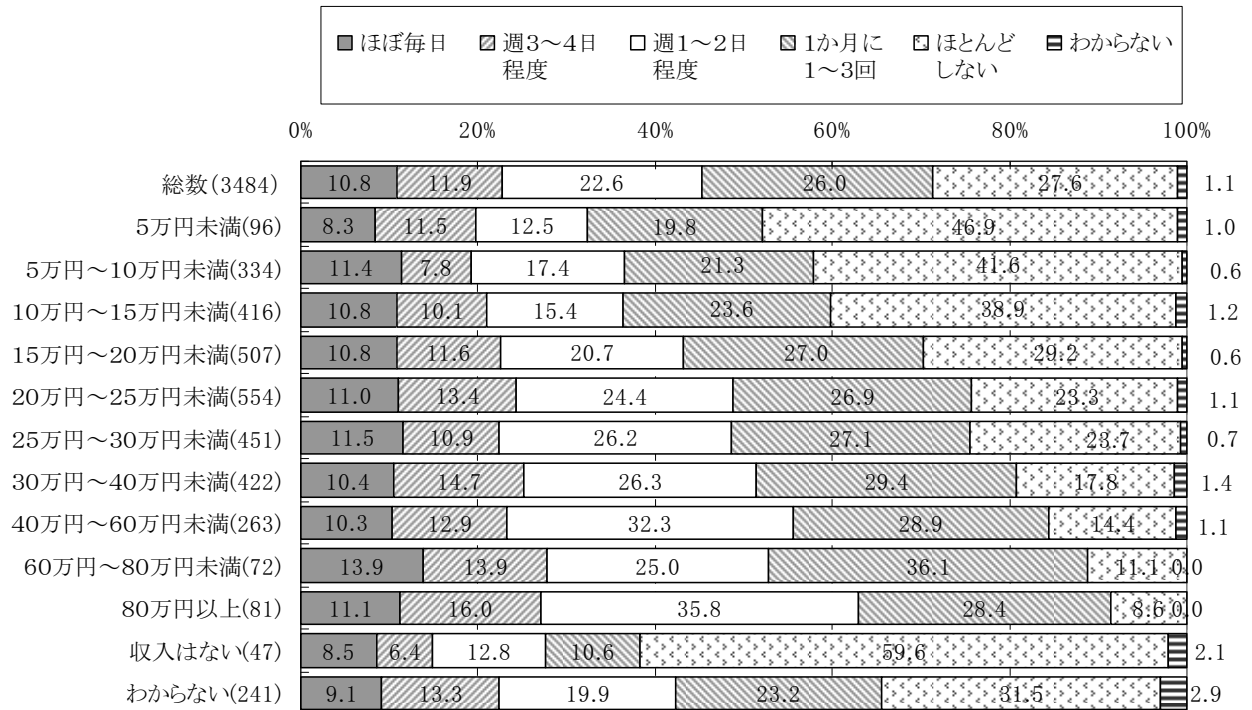
- ・ 余暇などのための外出の頻度について、「ほとんどしない」が27.6%と最も高く、「1か月に1~3回」が26.0%、「週に1~2日程度」が22.6%であった。
- ・ 男女別では男性のほうが外出頻度が高く、年齢別では、60代から70代にかけて「ほぼ毎日」と回答する人が増える一方、「ほとんどしない」人も増え、二極化していることがうかがえる。
- ・ 収入別に見ると、収入が少ないほど、また健康状態が良くないほど、「ほとんどしない」が多くなり、健康が「良くない」を回答した人の74.6%が余暇などのための外出を「ほとんどしない」。

Q6- (3) 余暇などのための外出はいかがですか。

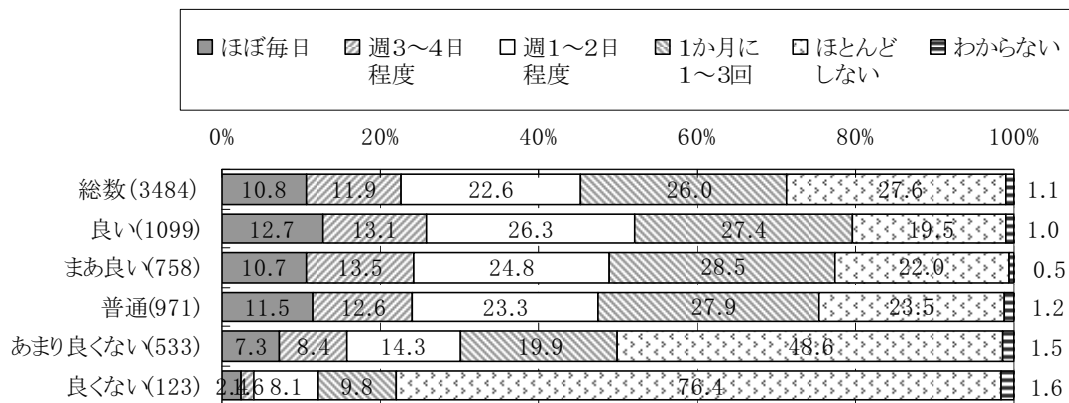
<男女別・年齢別>



<収入別>



<健康状態別>





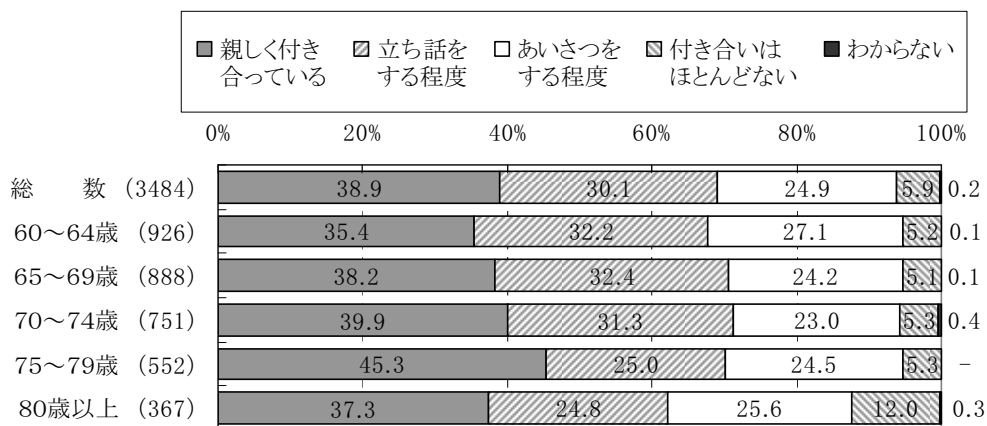
## 2. 近所づきあいや地域のつながりに関する事項

### (1) 近所との付き合い

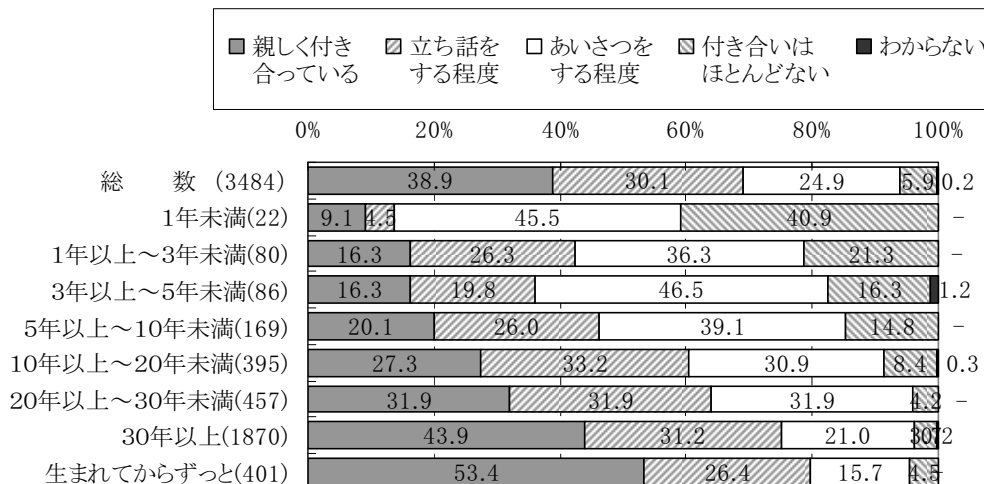
- ・ 「ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしているか」について尋ねたところ、総数では「親しく付き合っている」が 38.9%と最も高い。年齢別に見ると 70 代までは年齢が高くなるほど親しくなるが、80 歳以上では「付き合いがほとんどない」が 12.0%となる。
- ・ 居住年数別にみると居住年数が長いほど、健康状態別では健康状態が良いほど付き合いが親しくなる。
- ・ 子どもの有無別にみると、子どもがいない人では「親しく付き合っている」と回答した人は 28.5%にとどまる。

Q7 あなたは、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

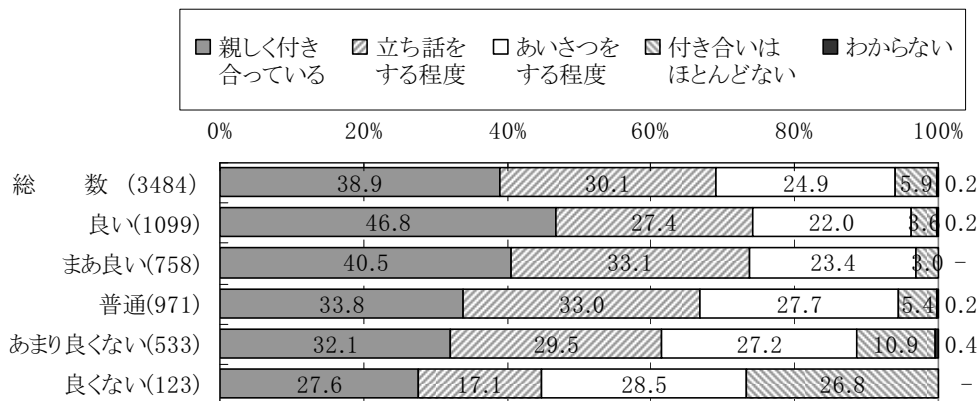
<年齢別>



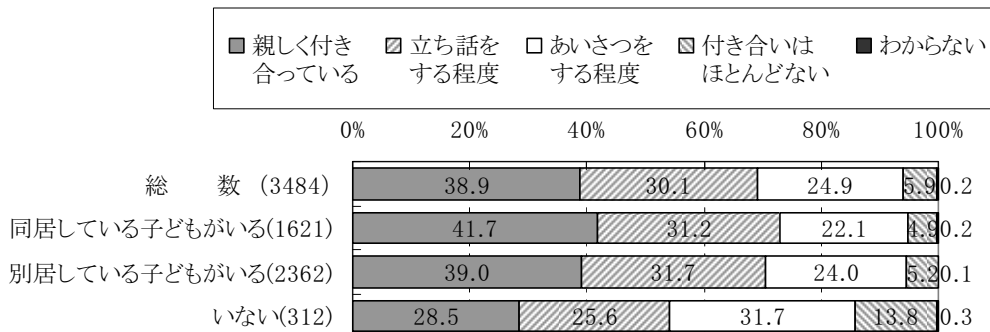
<居住年数別>



<健康状態別>



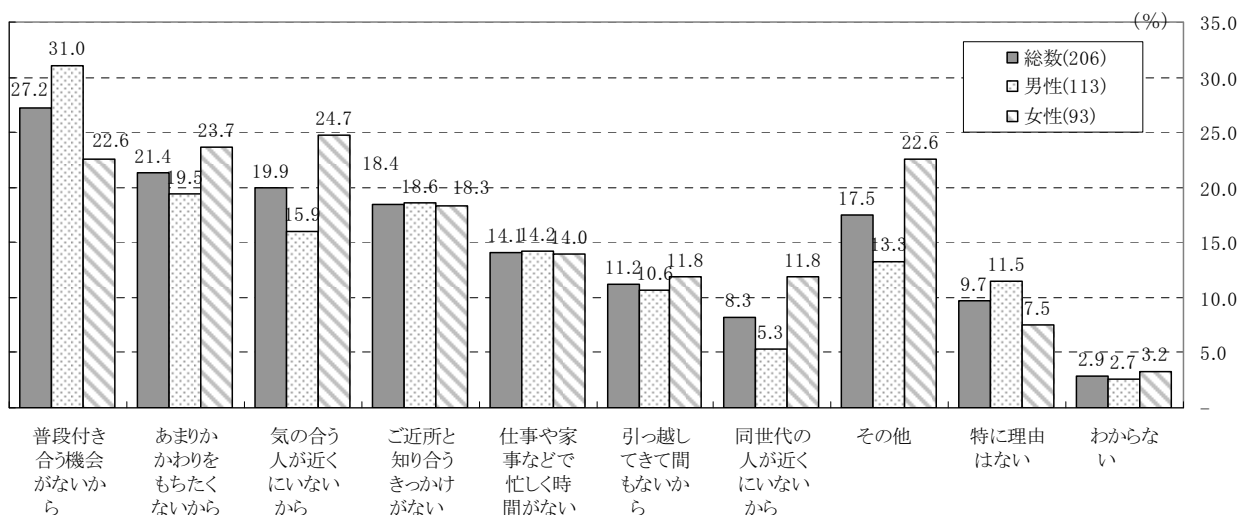
<子どもの有無別>



- ・ Q7で近所付き合いはほとんどないと答えた人にその理由を尋ねたところ、「普段付き合う機会がないから」が27.2%で最も高い。
- ・ 男女別にみると、男性では「普段付き合う機会がないから」が31.1%と最も高かったのに対し、女性では「気の合う人が近くにいないから」が24.7%で最も高く、続いて「あまり関わりを持ちたくないから」が23.7%、「普段付き合う機会がないから」が22.6%であった。

Q7SQ 付き合いがほとんどない理由 (M. A.)

<男女別>

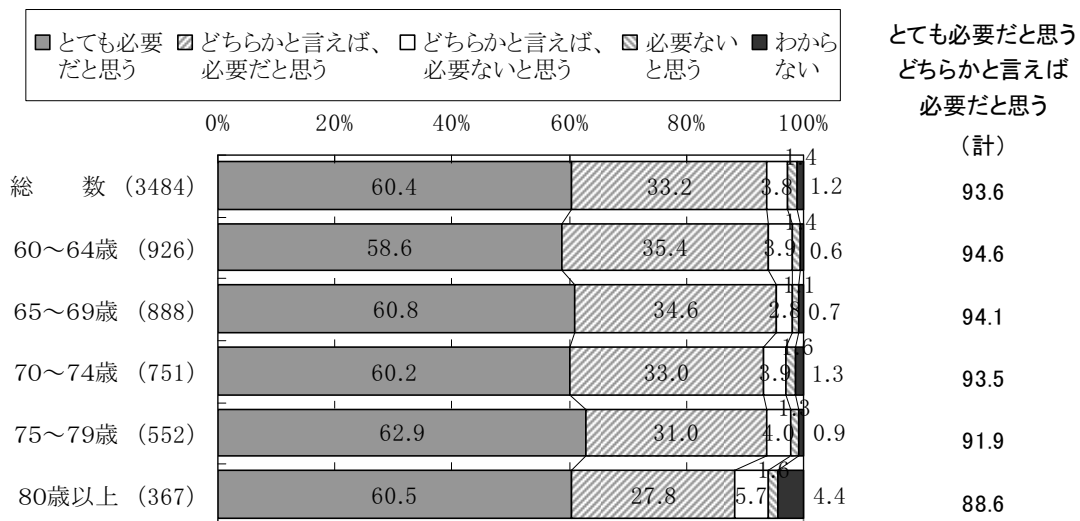


(2) 地域とのつながり

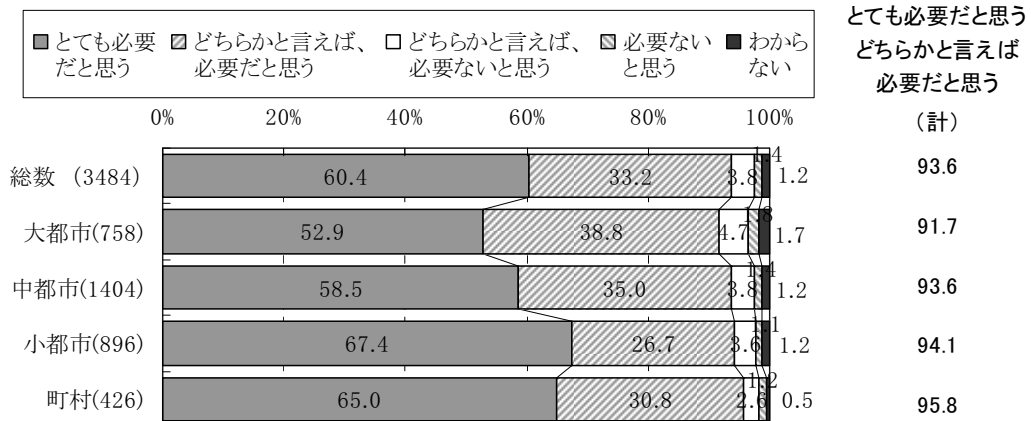
- ・ 「暮らしの中で地域のつながりは必要だと思うか」について、「必要だと思う」人（とても必要だと思う、どちらかと言えば必要だと思うの計）は93.6%であった。都市規模別に見ると、規模が小さいほど「とても必要だと思う」人が多く、町村では65.0%、大都市では52.9%と大きな差がある。
- ・ 配偶者の有無別にみると、未婚者や離別者では「必要ないと思う」人が増え、未婚者では「必要だと思う」人は83.1%、離別者では88.2%にとどまる。
- ・ 生きがいを感じている人ほど「必要だと思う」人が多く、「生きがいをあまり感じていない」人で「必要だと思う」人は89.9%、「まったく感じていない」人では76.7%にとどまる。
- ・ 近所付き合いの程度別に見ると、付き合いが親密なほど「必要だと思う」人が多く、「親しく付き合っている」人の82.3%が「とても必要だと思う」と回答している。

Q8 あなたにとって、暮らしの中で地域のつながりは必要だと思いますか。

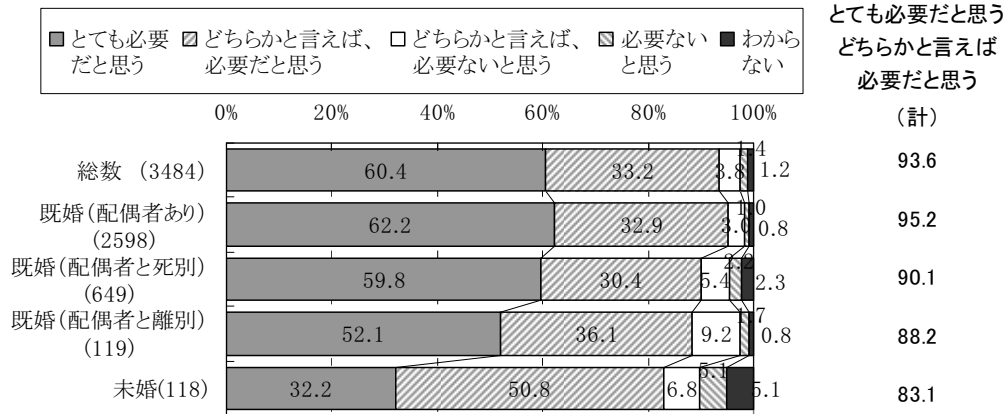
<年齢別>



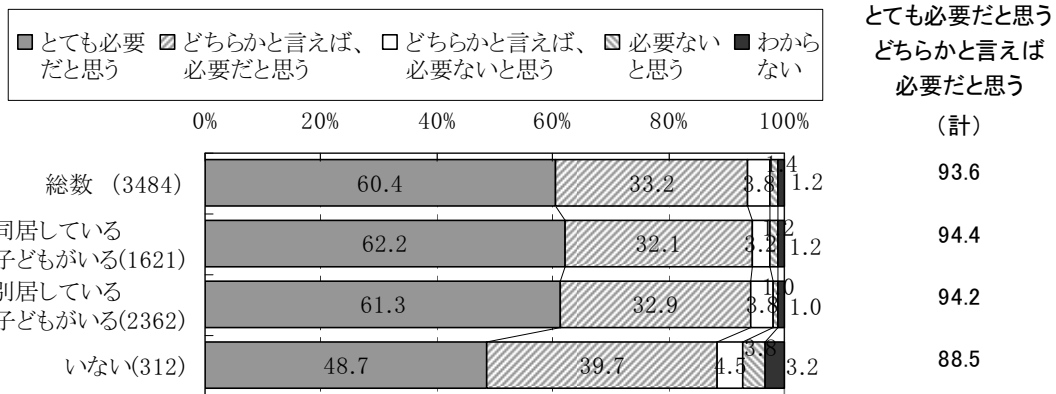
<都市規模別>



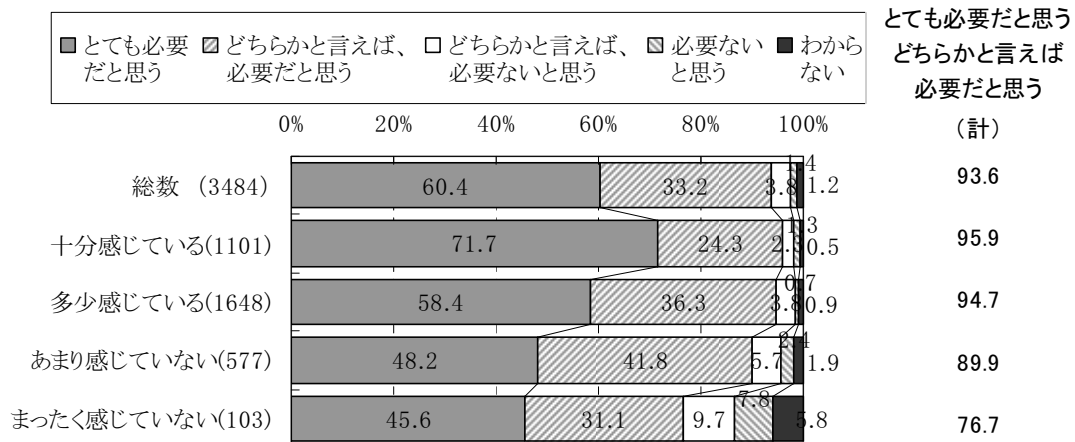
<配偶者の有無別>



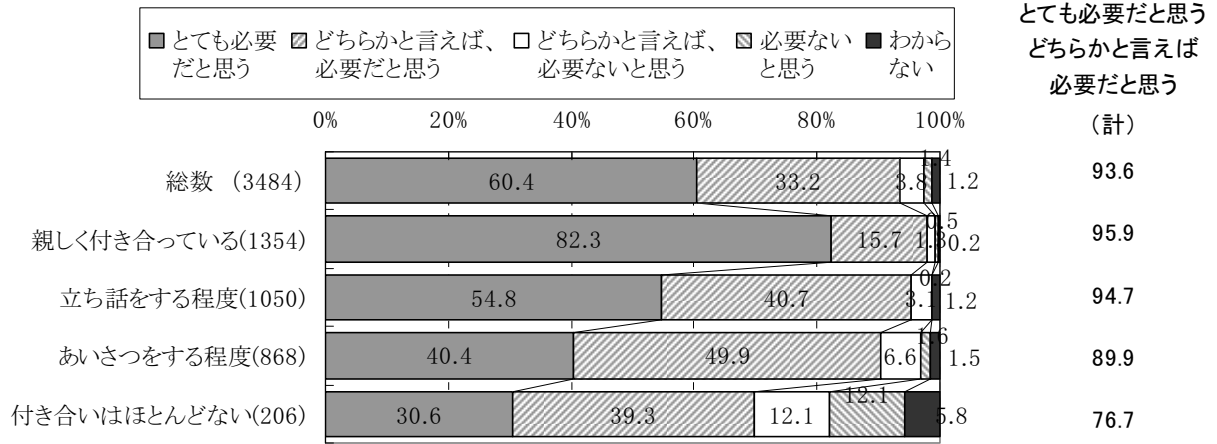
<子どもの有無別>



<生きがいの状態別>



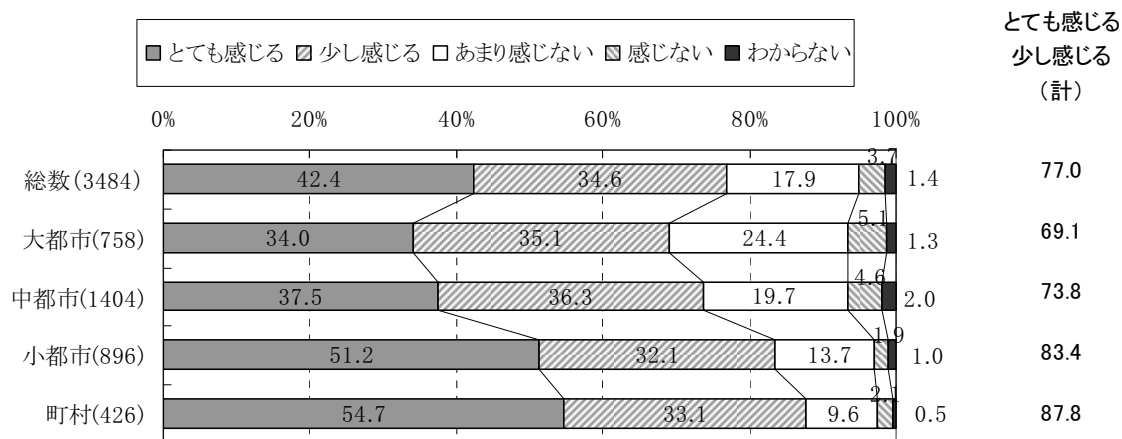
<近所付き合いの程度別>



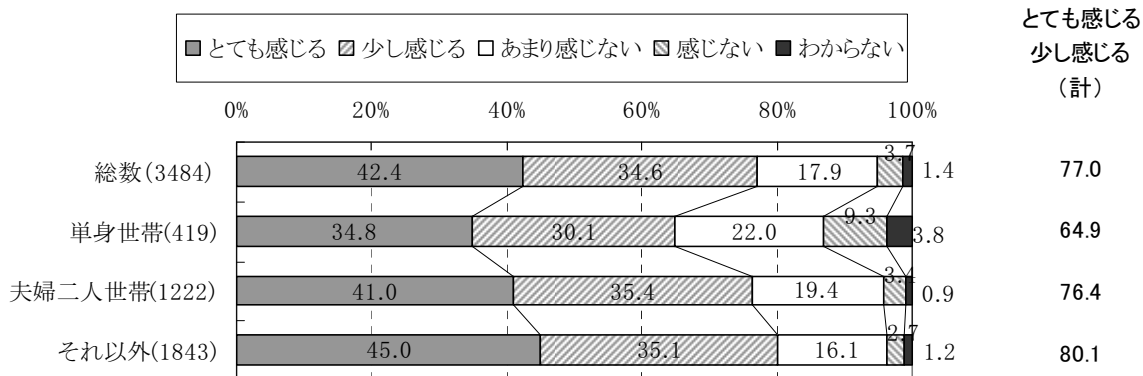
- ・ 「地域のつながり」について、「住んでいる地域には、地域のつながりはあると感じる（とても感じる、少し感じるの計）」人は 77.0%であった。都市規模別にみると、規模が小さいほどつながりがあると感じる人が多く、町村では 87.8%が「つながりがあると感じる」と回答している。
- ・ 単身世帯や子どもがいない人では、「つながりがあると感じる」人が少なく、単身世帯では 64.9%、子どもがいない人では 64.1%にとどまる。

Q9 あなたがお住まいの地域には、地域のつながりはありますか。

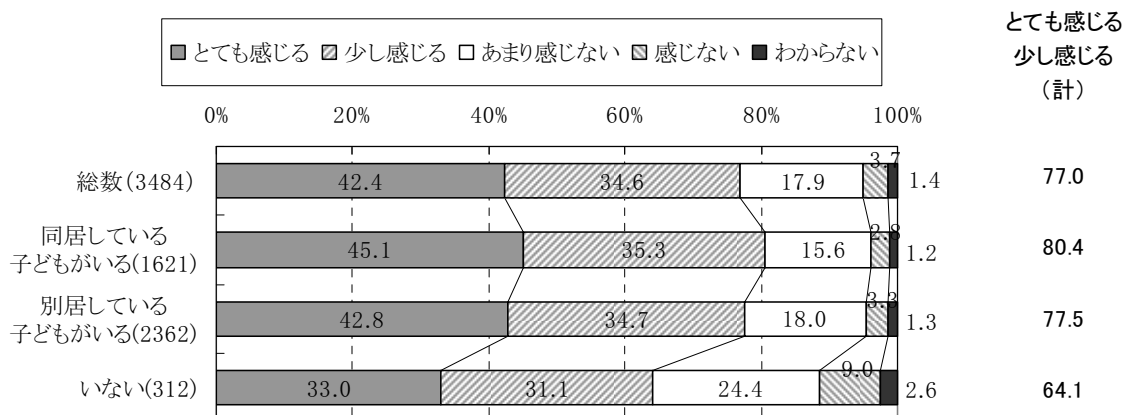
<都市規模別>



<世帯類型別>



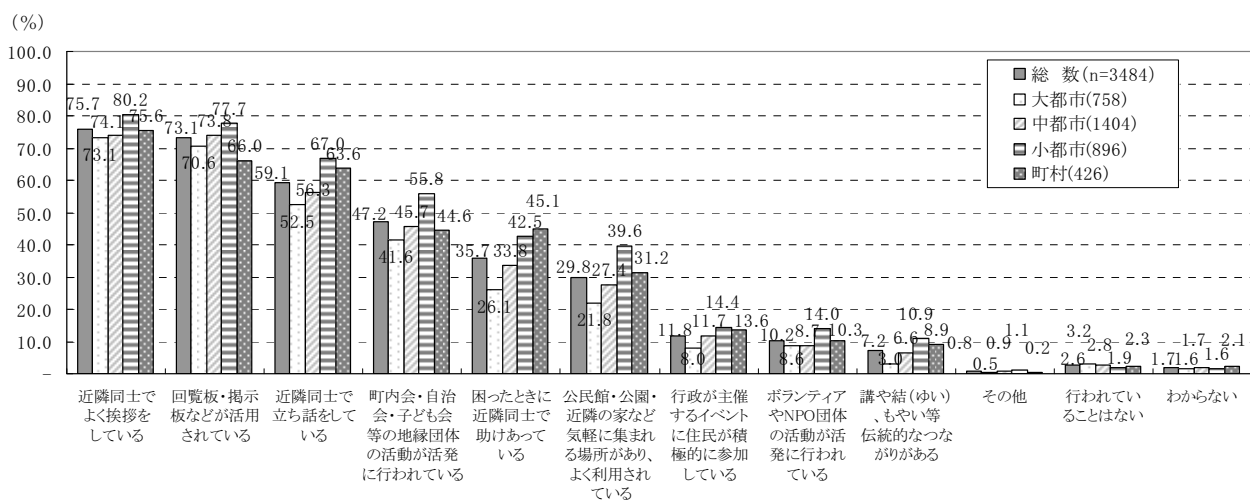
<子どもの有無別>



- ・ 具体的な地域のつながりに関する「住んでいる地域で行われていること」について、「近隣同士でよく挨拶をしている」が75.7%、「回覧板・掲示板などが活用されている」が73.1%と高かった。
- ・ 都市規模別にみると、大都市では各項目の回答比率が低く、小都市では高い。また、都市規模が小さいほど「困ったときに近隣同士で助けあう」との回答が多く、大都市が26.1%である一方、町村では45.1%であった。

Q10 この中にあなたのお住まいの地域で行われていることがありますか。行われていることをいくつかもあげてください。(M. A.)

<都市規模別>

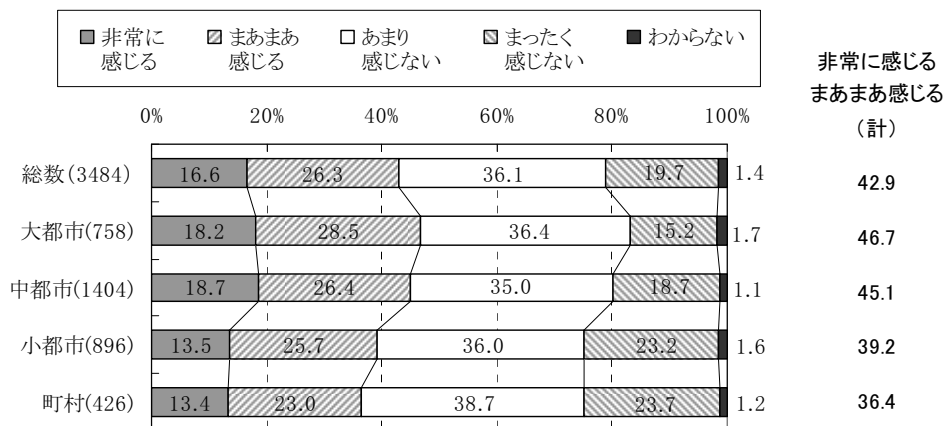


### (3) 孤独死について

- ・ 「孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近な問題だと感じるか」について、「身近に感じる（非常に感じる、まあまあ感じるの計）」人は 42.9%、「身近に感じない（あまり感じない、まったく感じないの計）」人は 55.8%であった。
- ・ 都市規模別にみると、規模が大きいほど「身近に感じる」人が多く、大都市では 46.7%に達している。
- ・ 世帯類型別にみると、一人暮らし世帯では「身近に感じる」人が 64.7%と非常に多い。
- ・ 男女別・年齢別でみると、男性より女性のほうが「身近に感じる」人が多く、男性では 75 歳以上、女性では 80 歳以上で「身近に感じない」人が多くなる。
- ・ 健康状態別にみると、健康状態が良くない人ほど「身近に感じる」人が多く、「安否確認の声かけ」を受けている人や必要だけど受けていない人は「身近に感じる」人が多い。
- ・ 近所付き合いの程度でみると、「親しく付き合っている」人は「身近に感じない」人が多い。
- ・ 地域のつながりの必要性について、「必要ない」、「どちらかと言えば必要ない」と思う人は孤独死を「身近に感じる」人が少なく 27.1%。
- ・ 地域のつながりの状況について、地域のつながりを感じない人ほど、孤独死を「身近に感じる」人が多く、地域のつながりを「感じない」人では 55.0%が孤独死を身近に感じている。

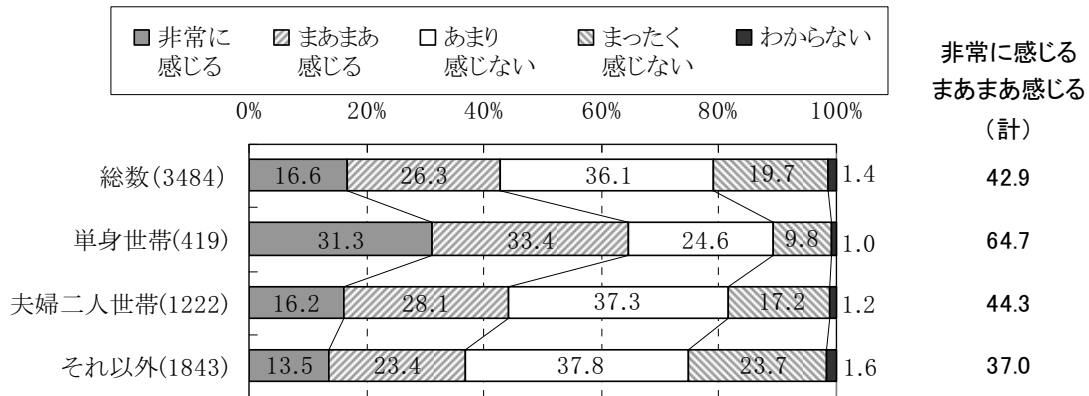
Q11 孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近な問題だと感じますか。

<都市規模別>

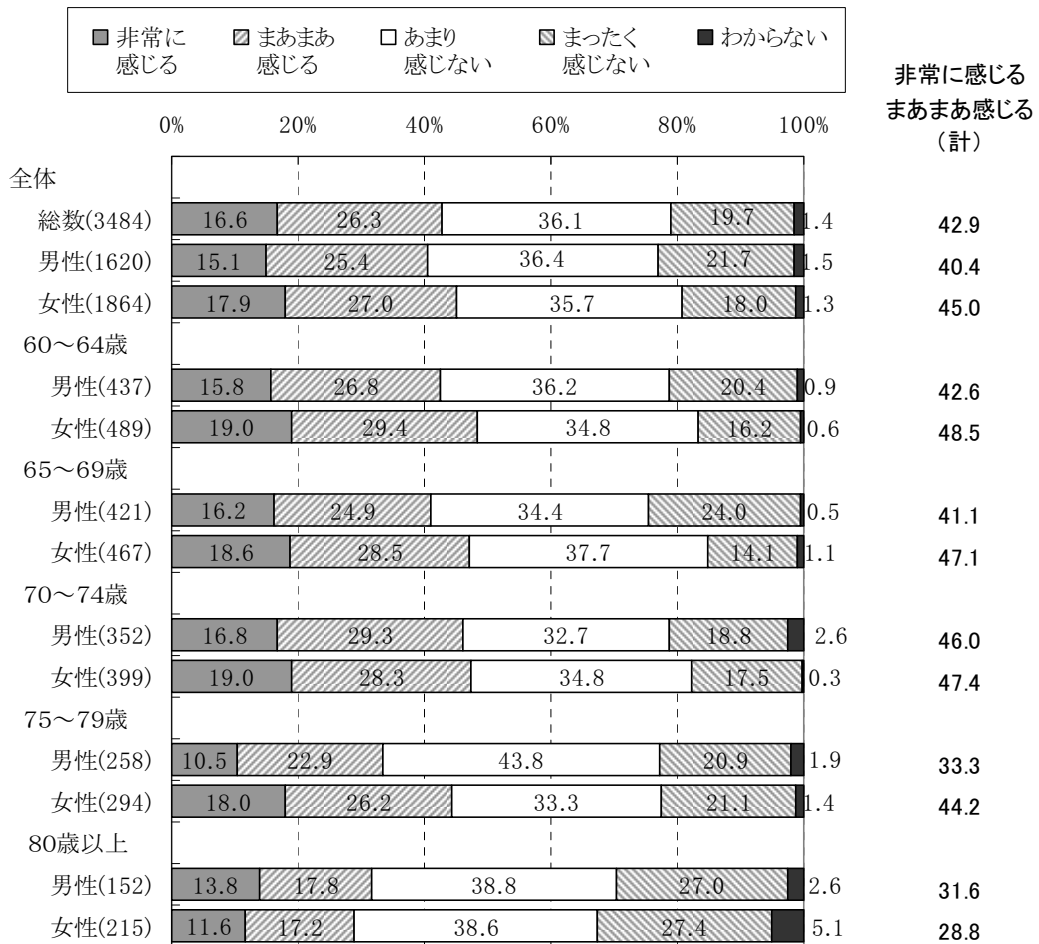




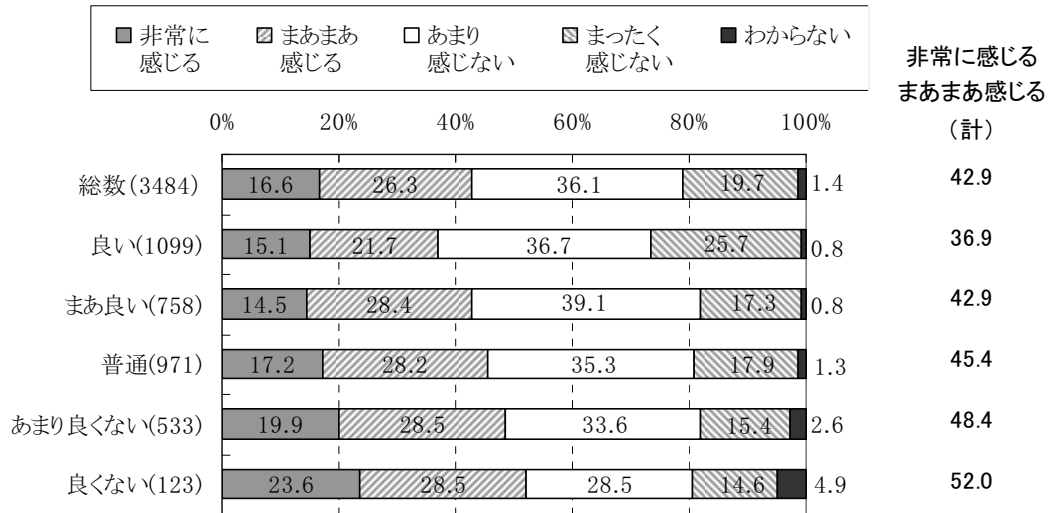
<世帯類型別>



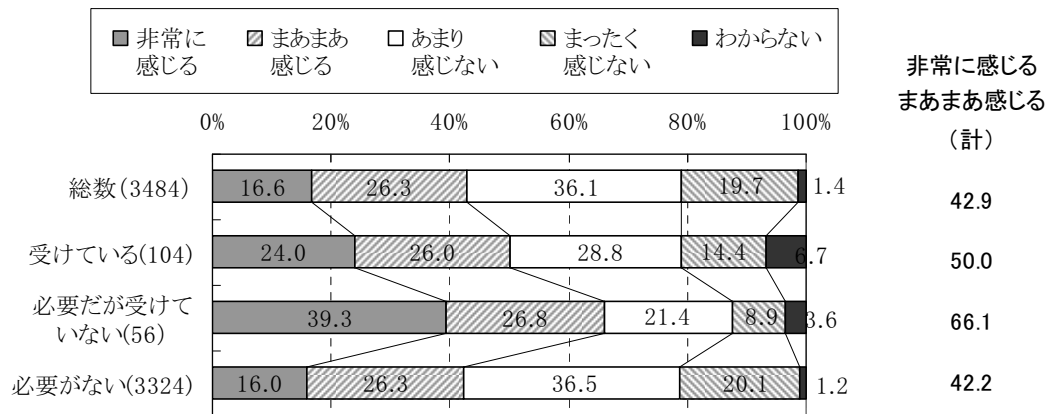
<性年齢別>



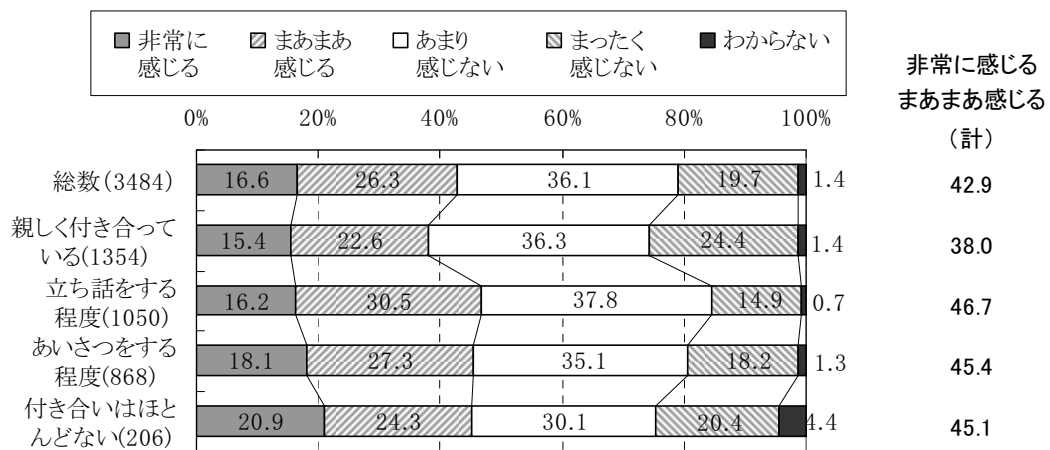
<健康状態別>



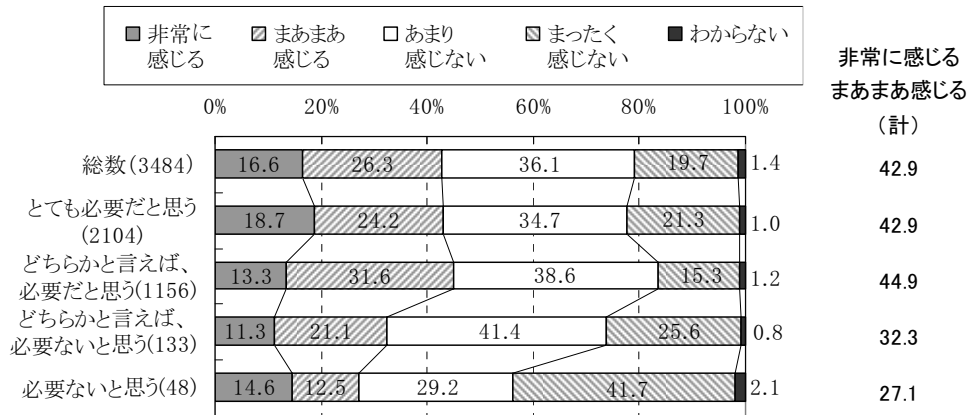
<受けている手助け別 (安否確認の声かけ)>



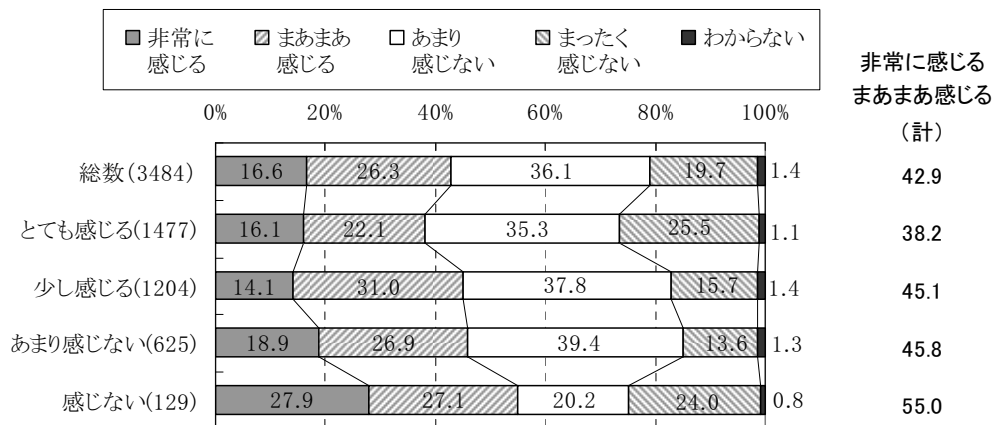
<近所付き合い別>



<地域のつながりの必要性別>

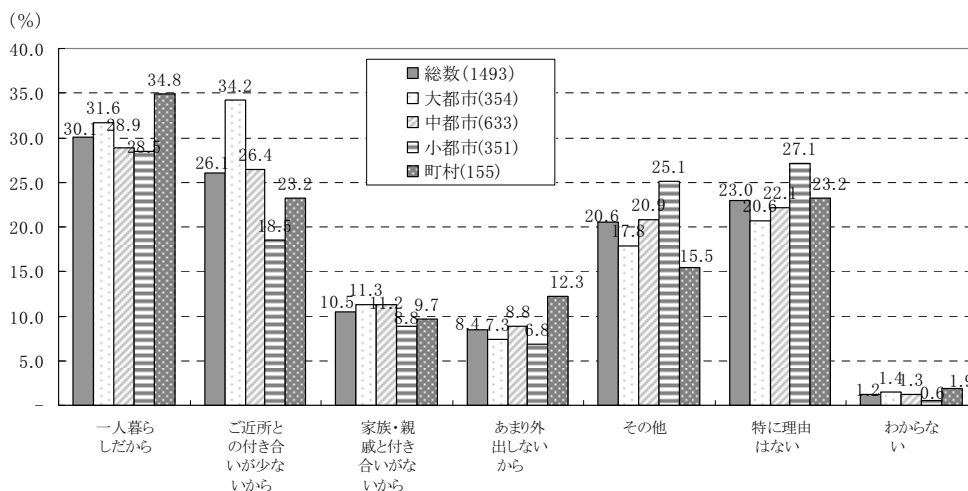


<地域のつながりの状況別>



- ・ 孤独死を身近な問題と感じると答えた人に、その理由を尋ねたところ、「一人暮らしだから」が30.1%、「ご近所との付き合いが少ないから」が26.1%であった。
- ・ 都市規模別にみると、大都市では「ご近所との付き合いが少ないから」との回答が多く34.2%、町村では「一人暮らしだから」の回答が多く34.2%であった。

Q11SQ 孤独死を身近な問題に感じる理由 (M. A.)

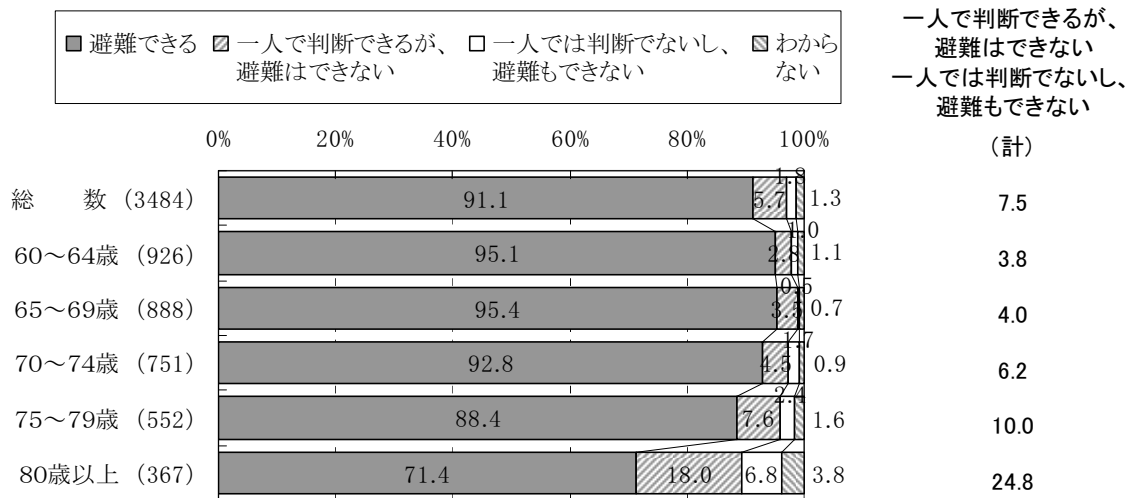


### 3. 日常生活に困った時・災害時等の対応に関する事項

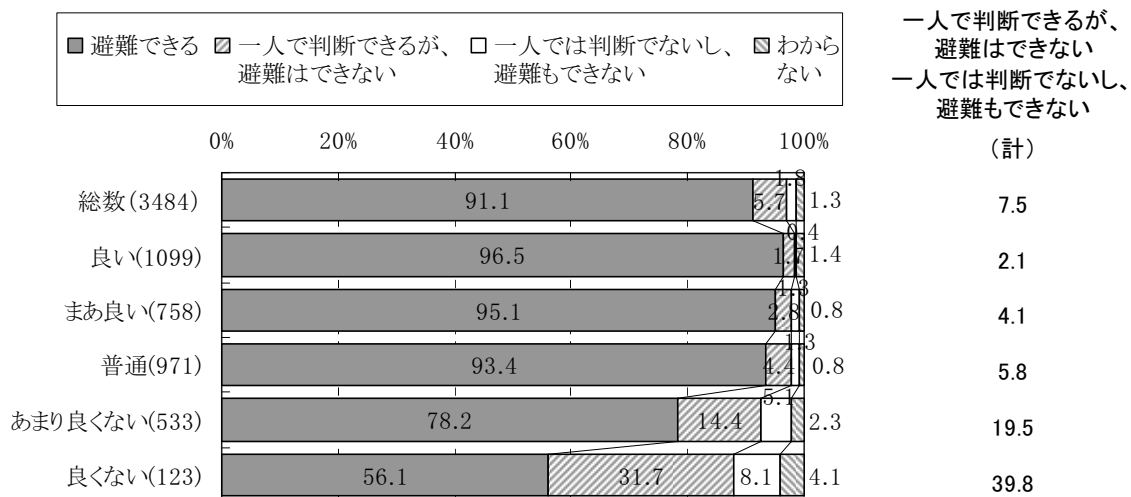
- ・ 「災害時（台風や地震等）や火災などの緊急時に、一人で避難することができるか」について、「避難できる」が91.1%であった。
- ・ 年齢別にみると、80歳以上では「避難できる」が71.4%と低くなっている。
- ・ 健康状態別にみると、健康状態が「あまり良くない」人の19.5%、「良くない」人の38.9%が「避難できない（「一人で判断できるが、避難はできない」、「一人では判断できないし、避難もできない」の計）と回答している。

Q12 あなたは、災害時（台風や地震等）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか。

<年齢別>



<健康状態別>

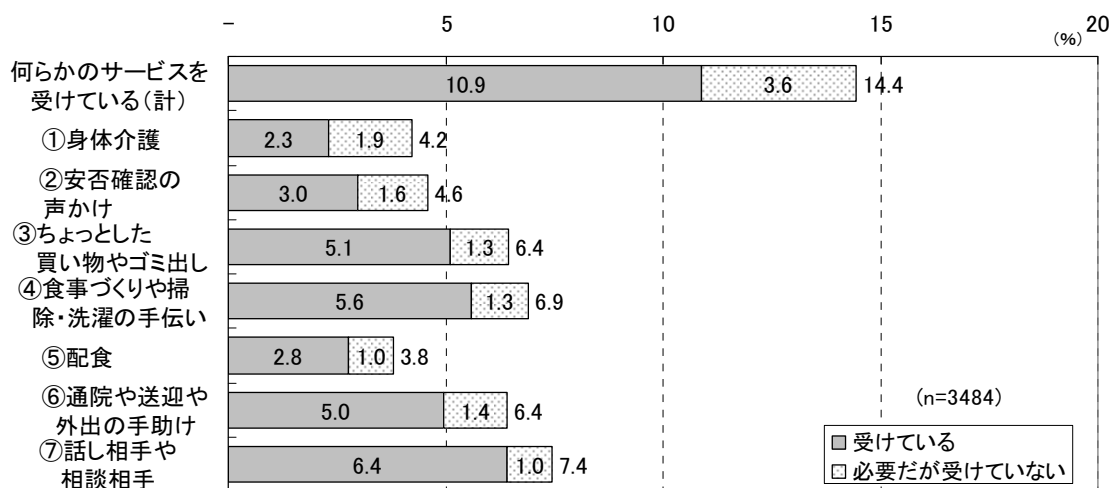


#### 4. 手助けや福祉サービス等の必要性に関する事項

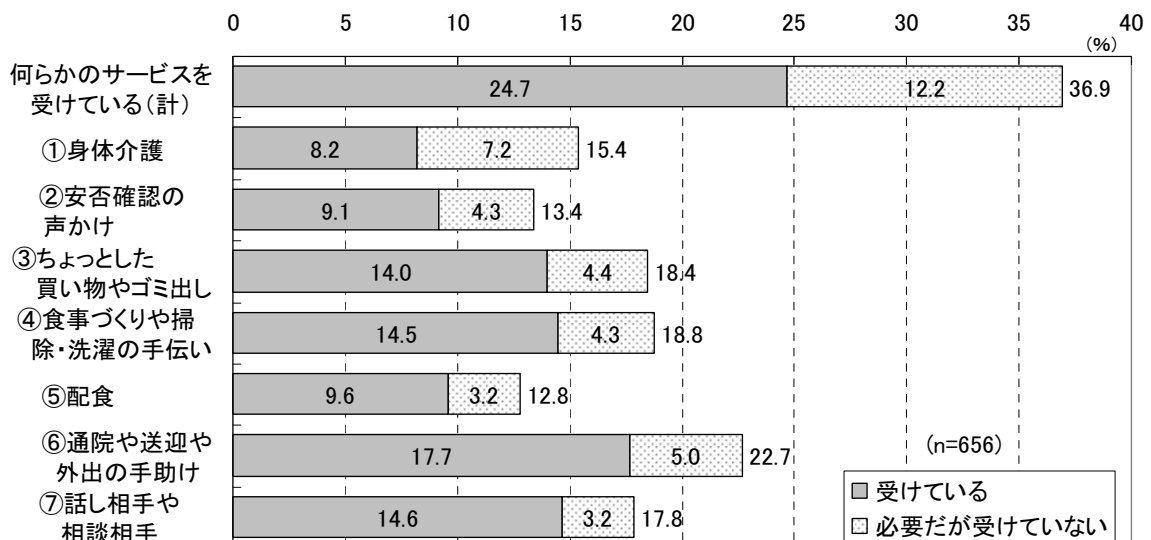
- 「現在、受けている手助けやサービス」について、何らかの手助けやサービスを受けている人は全体の10.9%。「話し相手や相談相手」が最も多く6.4%、「食事作りや掃除・洗濯の手伝い」が5.6%であった。各サービスについて、「必要だが受けていない」と回答した人はそれぞれ1%強であった。
- ・ Q1で健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した人が受けている手助けやサービスをみると、「通院や送迎や外出の手助け」が17.7%、「話し相手や相談相手」が14.6%、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」が14.5%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が14.0%であった。また、「必要だが受けていない」人は、「身体介護」で7.2%、「通院や送迎や外出の手助け」で5.0%であった。
- ・ 年齢別に見ると、年齢が高くなるほど、手助けやサービスを受ける人が増え、80歳以上では「通院や送迎や外出の手助け」を受けている人は21.5%であった。

Q13 あなたはこのような手助けや福祉サービスを家族や家族以外の人から受けていますか？

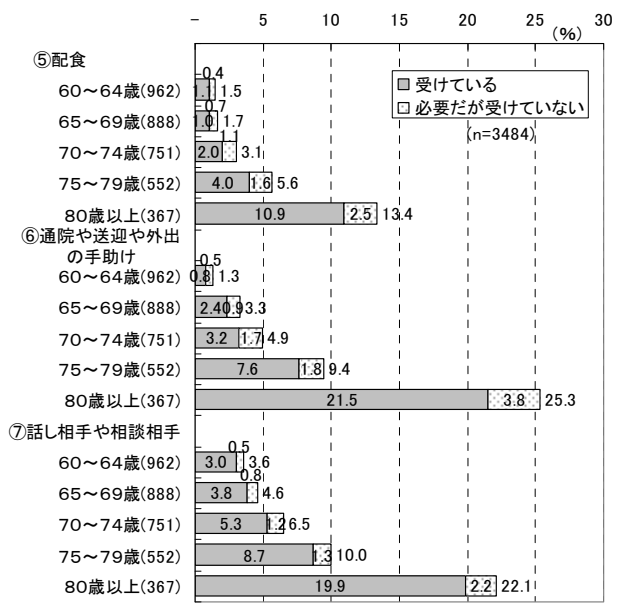
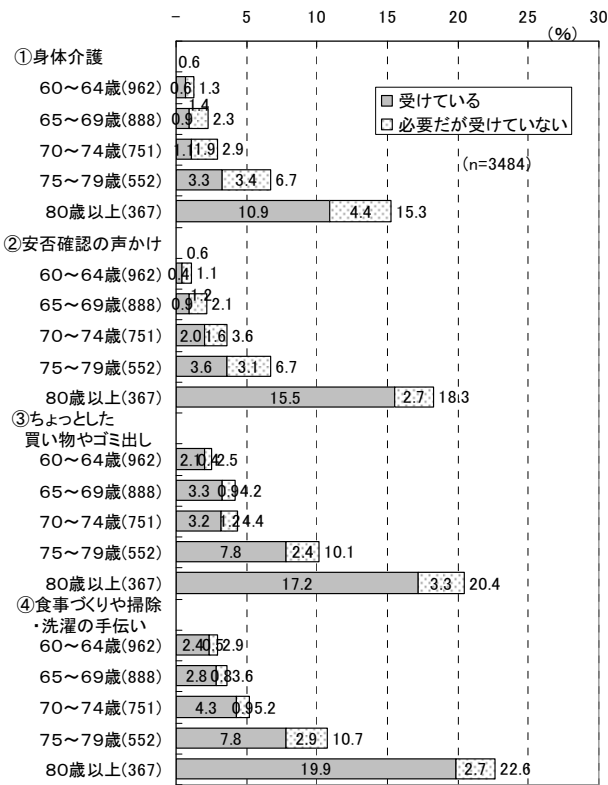
<全体>



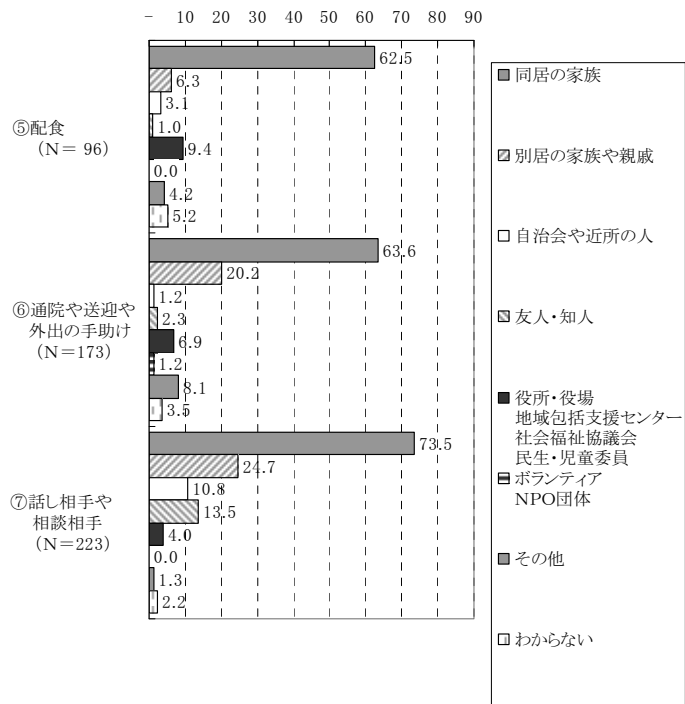
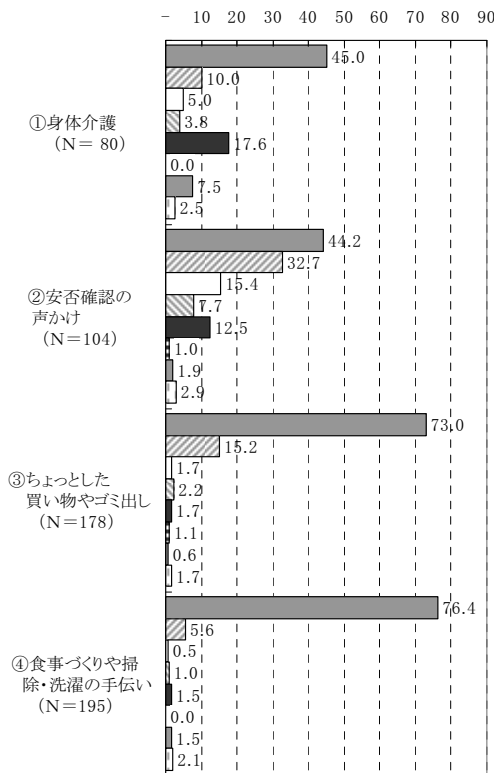
<健康状態が「よくない」、「あまりよくない」と回答した人>



<年齢別>



Q13SQ2 受けている手助け・サービスの担い手をこの中からそれぞれいくつでも教えてください。  
(M. A.)



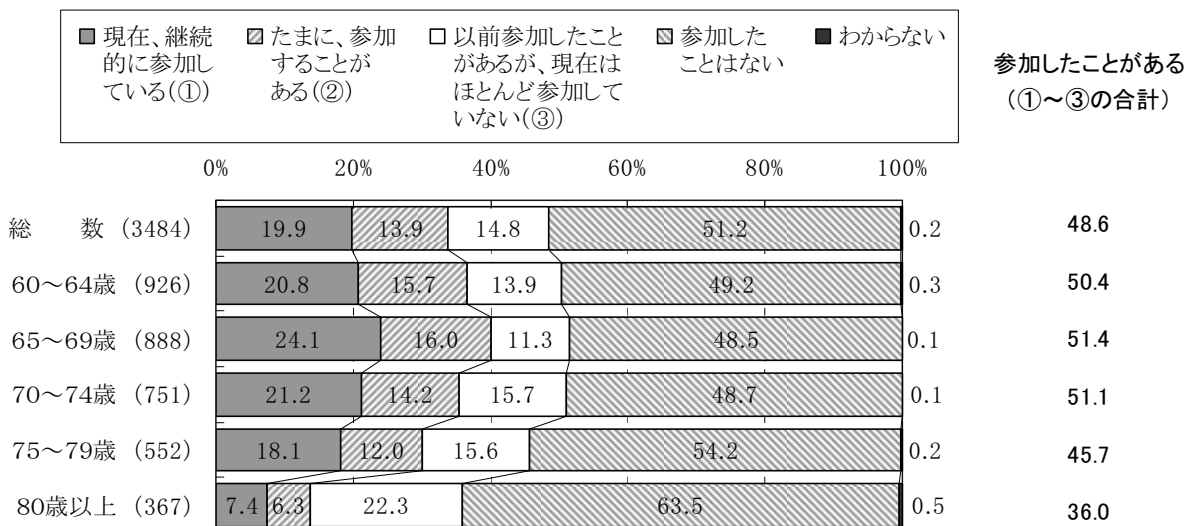
## 5. 地域福祉活動等への取組に関する事項

### (1) 現在の地域活動・ボランティア活動の状況について

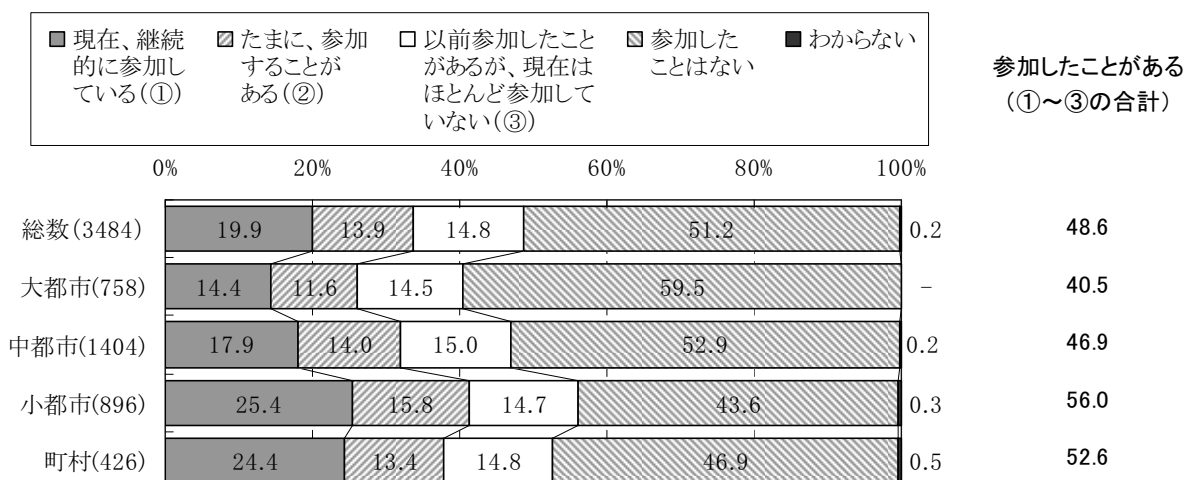
- ・ 現在の地域活動・ボランティア活動等への参加について、「現在、継続的に参加している」が19.9%、「たまに、参加することがある」が13.9%、「以前参加したことがあるが、現在はほとんど参加していない」が14.8%であり、過去も含め参加したことがある人は合計で48.5%であった。
- ・ 年齢別にみると、60代後半が「現在、継続的に参加している」人の割合が高く24.1%、80歳以上では「参加したことはない」人の割合が高く、63.5%であった。
- ・ 都市規模別にみると、小都市が一番活動的であるのに対し、大都市では活動が低調であり、「参加したことはない」が59.5%であった。
- ・ 世帯類型別にみると、単身世帯では活動が低調であり、「参加したことはない」人が66.8%であった。

Q14 あなたは、実際に地域活動・ボランティア活動等に参加していますか。

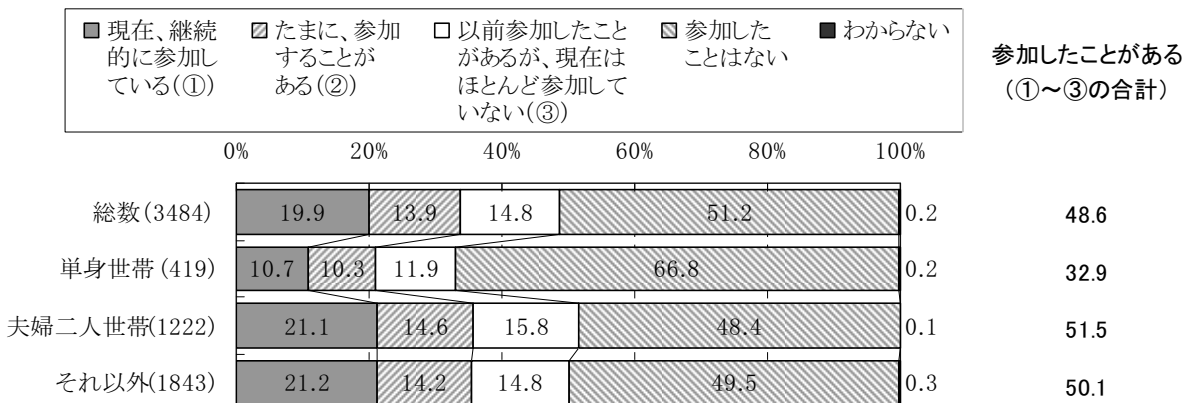
<年齢別>



<都市規模別>

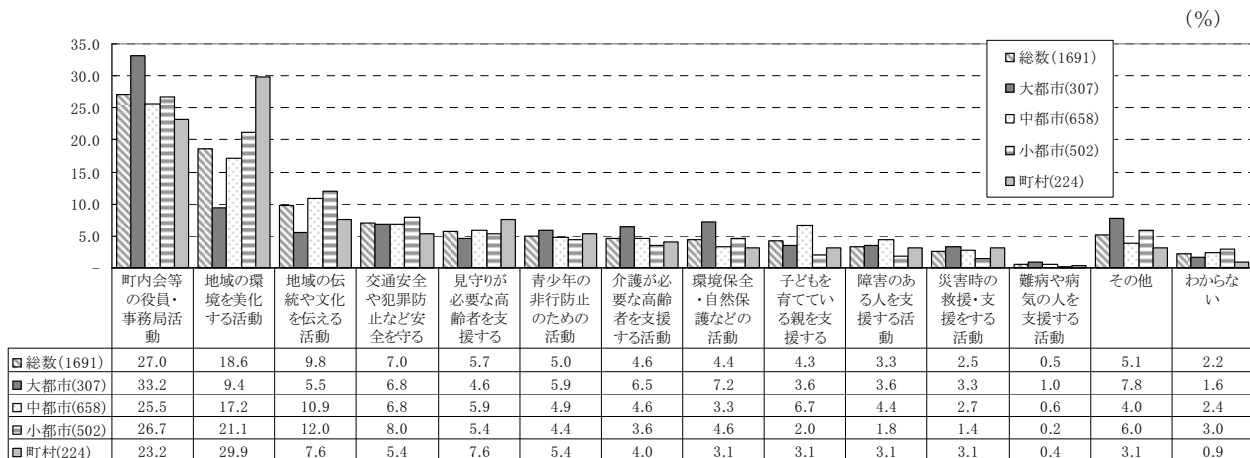


<世帯類型別>



- ・ 「その中で最も力を入れている(いた)活動」については、「自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動」が 27.0%、「地域の環境を美化する活動」が 18.6%と高かった。
- ・ 都市規模別にみると、都市では「自治会・町内会・老人クラブ・NPO 団体等の役員・事務局活動」が 33.2%、町村では「地域の環境を美化する活動」が 29.9%と高くなっている。

Q14SQ1 あなたが最も力を入れている(いた)地域活動・ボランティア活動はどのようなものですか。



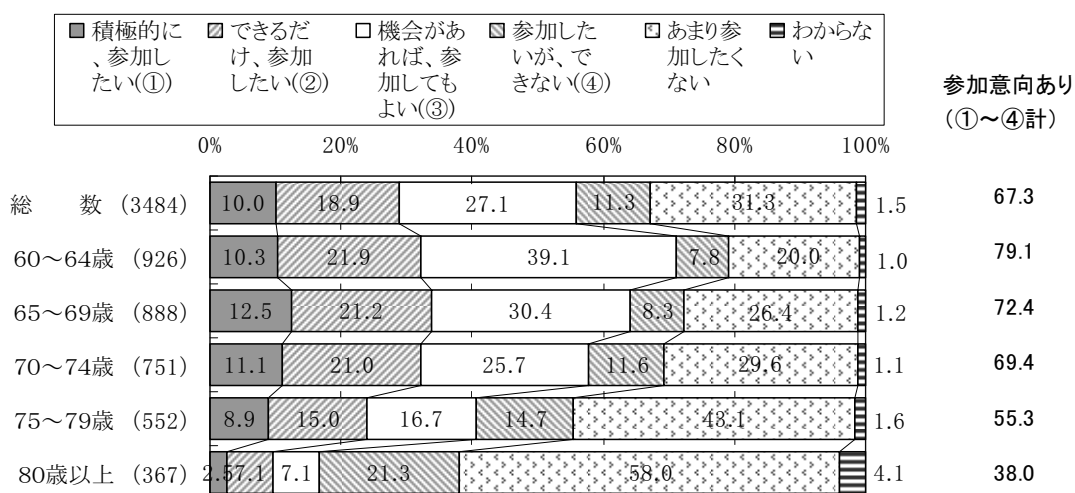


(2) 地域活動・ボランティア活動等への参加意向について

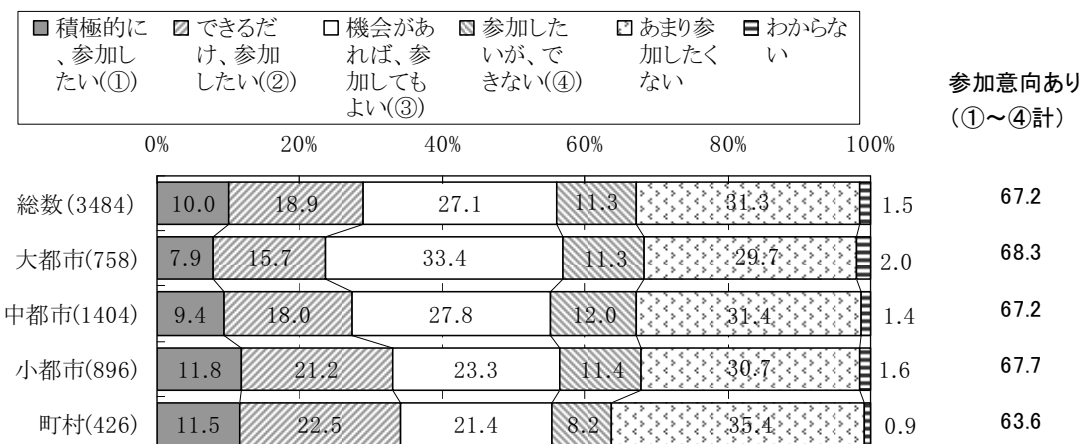
- ・ 「今後、地域活動・ボランティア活動等に参加したいと考えているか」について、「積極的に、参加したい」が10.0%、「できるだけ、参加したい」が18.9%、「機会があれば、参加してもよい」が27.1%、「参加したいができない」が11.3%で、参加意向がある人は合計で67.2%となっている。
- ・ 年齢別でみると、年齢が低いほど参加意向がある人は多く、60代前半では79.1%、60代後半では72.4%が「参加意向あり」と回答している。
- ・ 都市規模別にみると、「積極的に、参加したい」と「できるだけ参加したい」の計は、都市規模が小さいほど高いが、「機会があれば、参加してもよい」は都市規模が大きくなるほど高くなる。
- ・ 性別でみると「積極的に、参加したい」と「できるだけ、参加したい」の計は、女性より男性の方が10ポイント以上上回っている。
- ・ 収入別にみると収入が高いほど参加意向がある人の割合が増える。

Q15 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に参加したいと考えていますか。

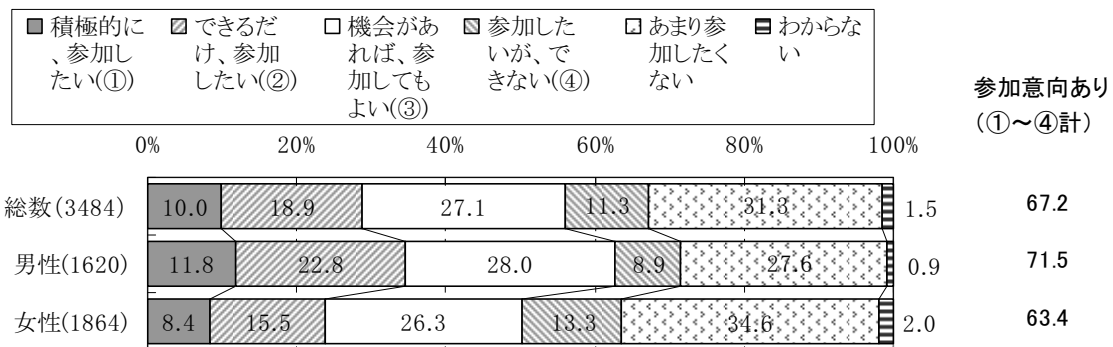
<年齢別>



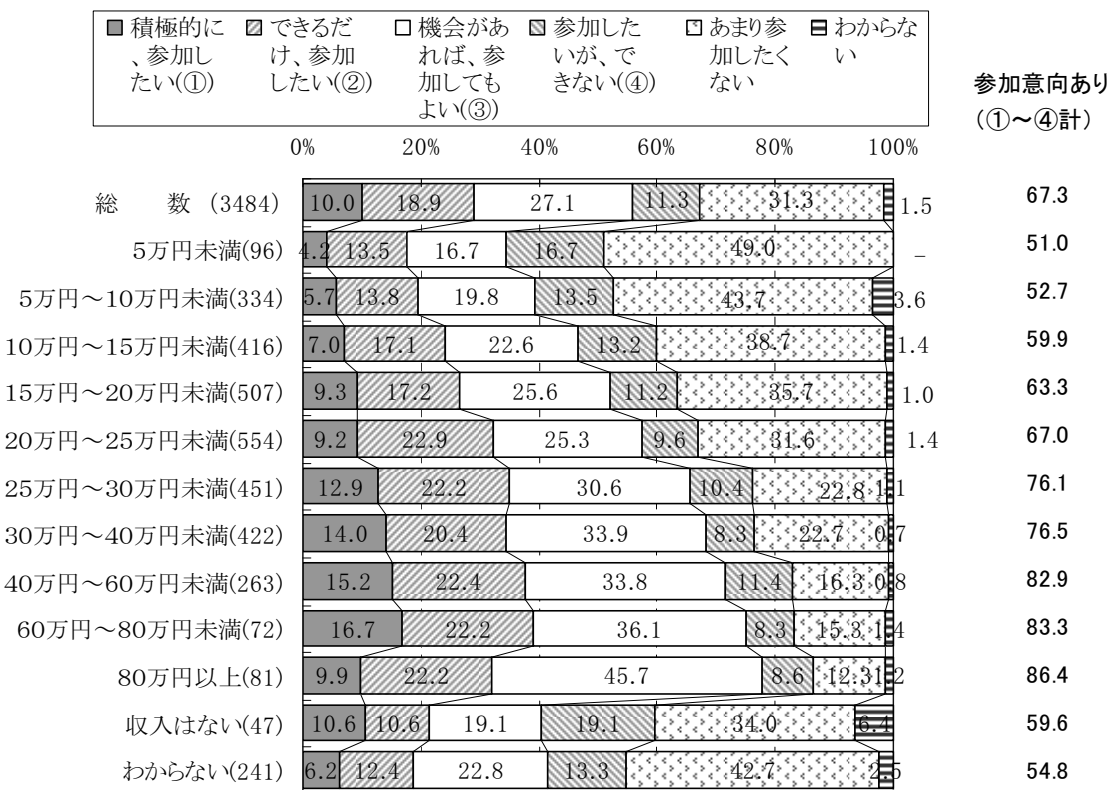
<都市規模別>



<男女別>



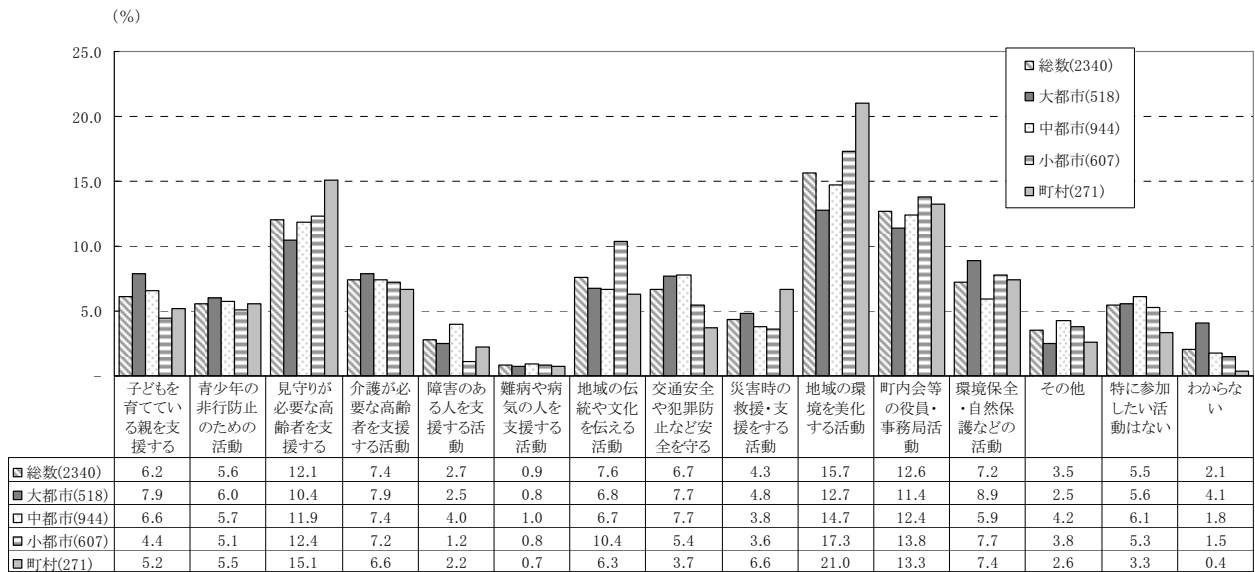
<収入別>



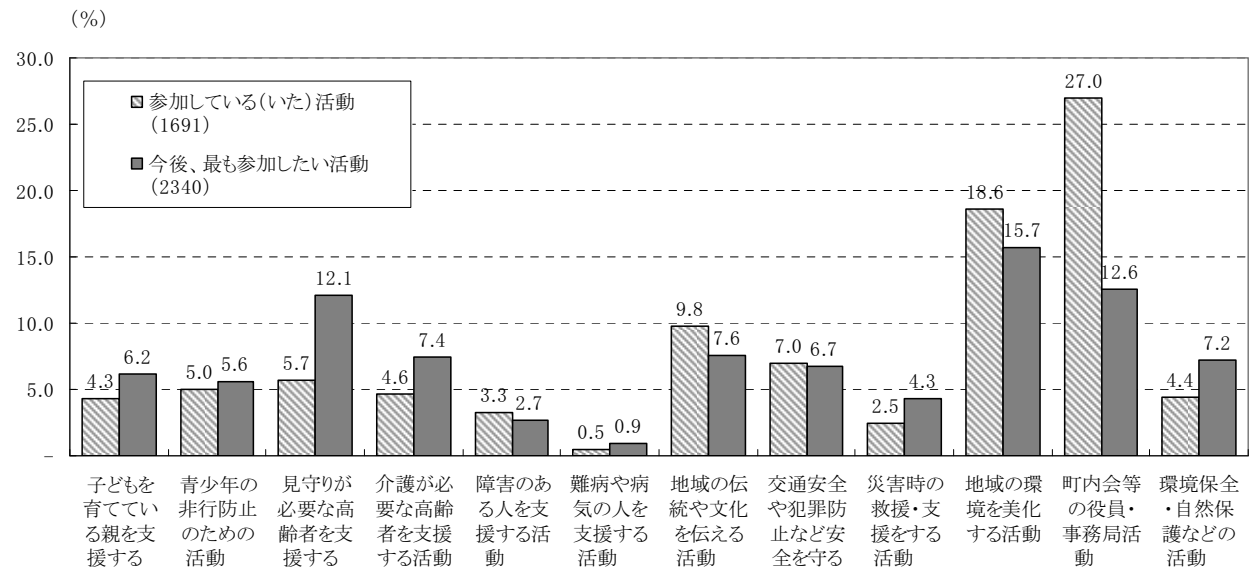
- ・ Q15で参加意向がある人に、「その中で最も参加したい活動」について尋ねたところ、「地域の環境を美化する活動」が15.7%、「自治会・町内会・老人クラブ・NPO団体等の役員・事務局活動」が12.6%、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」が12.1%であった。
- ・ 都市規模別にみると、都市規模が小さくなるほど、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」や「地域の環境を美化する活動」に参加したい人が多い。
- ・ Q14SQ1の「最も力を入れている(いた)活動」と比較すると、「ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」や「介護が必要な高齢者を支援する活動」については、「最も力を入れている(いた)活動」よりも「今後最も参加したい活動」と回答した人のほうが多い。

Q15SQ 今後、あなたが最も参加したい地域活動・ボランティア活動はどれですか。

<都市規模別>



<「最も力を入れている(いた)活動」と「今後、最も参加したい活動」との比較>

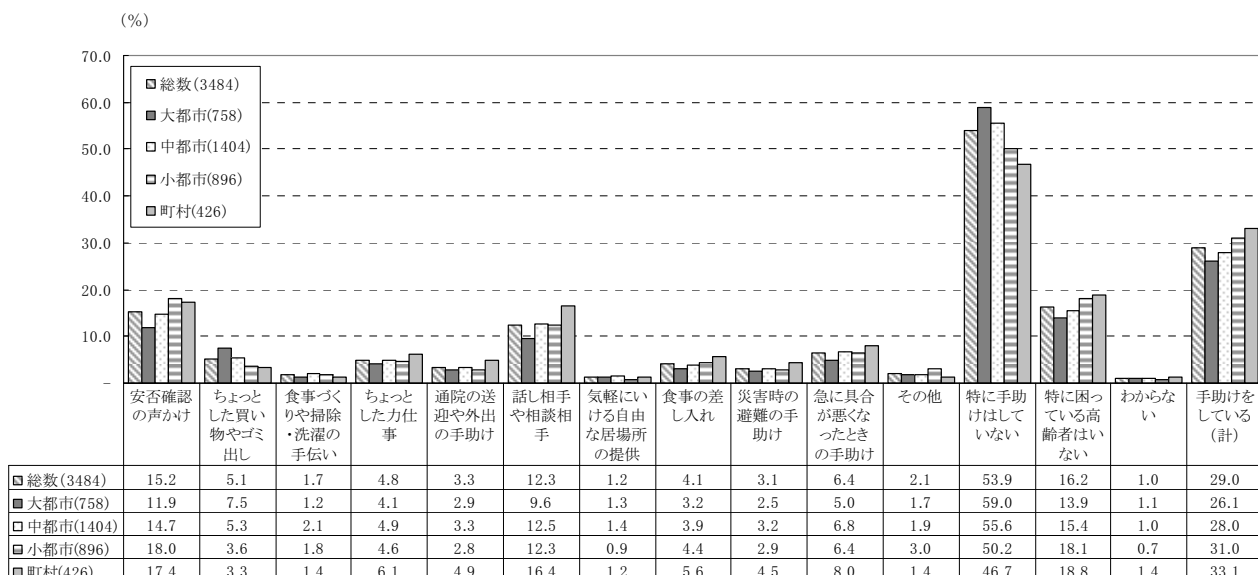


(3) 地域で困った世帯に対して実施している手助けと実施したい手助け

- ・ 「地域の困っている高齢者の家庭に対して、何か手助けをしているか」について、「安否確認の声かけ」が 15.2%、「話し相手や相談相手」が 12.3%であり、何らかの手助けをしているとの回答は 29.0%であった。都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「特に手助けはしていない」が高い。
- ・ 「地域の困っている高齢者の家庭があった場合、あなたはどのような手助けをしようと思うか」について、「安否確認の声かけ」が 45.9%、「話し相手や相談相手」が 35.6%で、何らかの手助けをしようと思うとの回答は 80.3%を占めている。都市規模別にみると、規模が大きくなるほど「しようと思う手助けがある（計）」が高くなっている。
- ・ 「実施している手助け」と「実施したい手助け」を比較すると、いずれも「実施したい」と回答する高齢者が上回っている。

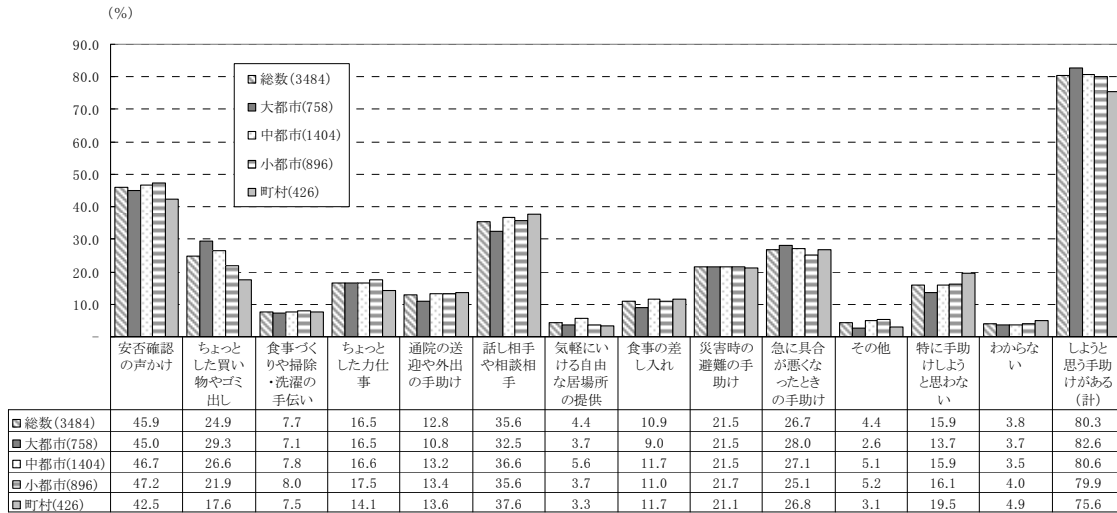
Q17 地域の困っている高齢者の家庭に対して、あなたは何か手助けをしていますか。この中からあなたが行っている手助けがあればいくつでもあげてください。(M. A.)

<都市規模別>



Q18 地域で、高齢者が困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けをしようと思いますか。既にしている手助けも含めて、この中からあなたがしようと思う手助けがあればいくつでもあげてください。(M. A.)

<都市規模別>



<実施している手助けと実施したい手助けの比較>

